

目次

1. 工場認定書
2. JIS認定書
3. 配合計画書（溶融スラグ）
  - ①. 配合計画書
  - ②. アルカリ骨材反応抑制対策
  - ③. アルカリ総量計算書
4. 原材料品質証明書
  - ①. セメント
  - ②. 骨材
    - 絶乾密度及び吸水率試験
    - 安定性
    - すりへり試験
    - 粒度試験
    - 粒形判定実績率試験
    - 微粒分量試験
    - 有機不純物試験
    - アルカリシリカ反応性試験
    - 環境安全品質試験
    - 化学分析試験
    - 膨張率試験
  - ③. 水
  - ④. 混和剤料
  - ⑤. 鉄筋
5. コンクリート試験管理表
  - ①. 圧縮強度管理表
  - ②. スランプ管理表
  - ③. 空気量管理表
  - ④. 生コン中の塩化物測定記録
6. 試験機公正証明書
  - ①. 圧縮強度試験機
  - ②. 外圧強度試験機
  - ③. トレーサビリティ体系

## 1. 工場認定書

# 工場認定書

田中コンクリート工業株式会社

代表取締役 亀谷太郎 殿

秋田県コンクリート製品協会評価委員会が定めた  
認定要領に基づき審査を行った結果 下記工場が  
製造品質管理基準を満たしていることを認める

認定番号 ACA-04-1

認定工場 田中コンクリート工業株式会社 東北工場

所在地 秋田県大館市二井田字菖蒲沼28

有効期間 令和7年4月1日 ~ 令和8年3月31日

認定日 令和7年4月1日

秋田県コンクリート製品協会

会長 小山雄二



同 評価委員会

委員長 徳重英信



原本と相違ない事を証明します  
田中コンクリート工業株式会社 東北工場



## 2. JIS認定書



発効日：2023年8月25日  
Certification for Japanese Industrial Standards

# 日本産業規格適合性認証書

田中コンクリート工業株式会社 殿

産業標準化法第30条第1項に基づき、下記のとおり  
当該日本産業規格への適合を認証いたします。

## 記

認 証 番 号：TC0208075

認証取得者の氏名及び名称：田中コンクリート工業株式会社  
住 所：東京都中央区日本橋茅場町 1-1-8

鉦工業品の名称：プレキャスト鉄筋コンクリート製品

認証に係る JIS 番号：JIS A 5372

認 証 の 区 分：I類

工場及び事業所の名称：田中コンクリート工業株式会社 東北工場  
所 在 地：秋田県大館市二井田字菖蒲沼 28

「認証の範囲」、「認証マーク等の表示」、「付記事項の表示」及び「表示の方法」については  
日本産業規格適合性認証書附属書による。

認 証 契 約 日：2008年8月25日  
有 効 期 限：2026年8月24日

原本と相違ない事を証明します

田中コンクリート工業(株)  
東北工場



一般財団法人 建材試験センター  
Japan Testing Center for Construction Materials  
東京都中央区日本橋堀留町1丁目10番15号

理事長 渡辺 宏





Annex to Certification for Japanese Industrial Standards

# 日本産業規格適合性認証書附属書

(認証番号:TC0208075)

認証の範囲(種類又は等級) :

プレキャスト鉄筋コンクリート製品 I類

製品の種類	製品
路面排水溝類	落ちふた式U形側溝
用排水路類	フリューム

認証マーク等の表示 :

- 1) 認証マークは、単色とし直径32mm以上の大きさで表示する。
- 2) 認証マーク近傍に、一般財団法人 建材試験センターの略称及び認証番号として、「TC0208075」を表示する。
- 3) 日本産業規格の種類及び呼びの略号を表示する。

付記事項の表示 : 鋳工業品等には次の事項を表示する。

適合する JIS で定める表示事項

- ・認証取得者(製造業者)の名称又は略号
- ・製造工場名又は略号
- ・製造年月日又は略号

表示の方法 :

- 1) 認証マーク等は、1製品ごとに押印する。
- 2) 容易に消えない方法による。

一般財団法人 建材試験センター  
上級経営管理者

丸山 慶一郎



原本と相違ない事を証明します。  
田中コンクリート工業(株)東北工場



3. 配合計画書（溶融スラグ）

- ①. 配合計画書
- ②. アルカリ骨材反応抑制対策
- ③. アルカリ総量計算書

振動流し込み製品

## コンクリートの示方配合表

コンクリートの配合種類 スラグ

コンクリートの圧縮強度 設計基準強度 30N/mm<sup>2</sup>

セメントの種類	粗骨材の最大寸法 (mm)	スランブの範囲 (cm)	空気量 (%)	水セメント比 W/C (%)	細骨材率 S/a (%)	単位量 (kg/m <sup>3</sup> )					
						水 W	セメント C	細骨材 S1	スラグ S2	粗骨材 G	混和剤 AB
普通	20	8.0±2.5	4.5±1.5	43.5	38.5	157	361	508	187	1145	1.81

※ コンクリート中の塩化物総量は、0.3kg/m<sup>3</sup>(Cl-)以下  
測定器カンタブ(=塩測第860202号)とする

※ 溶融スラグの配合率:細骨材全体の25%(質量比)

## 使用材料規格

セメント種類	項目	比表面積 (cm <sup>2</sup> /g)	凝結		安定性	圧縮強さ (N/mm <sup>2</sup> )				化学成分 (%)				
			始発 (h-m)	終結 (h-m)		1d	3d	7d	28d	酸化マグネシウム	三酸化硫黄	強熱減量	全アルカリ	酸化物イオン
普通 ポルトランド		2500以上	60m以上	10h以下	良	—	12.5以上	22.5以上	42.5以上	5.0以下	3.5以下	5.0以下	0.75以下	0.035以下
メーカー : UBE三菱セメント 株式会社														

骨材種類	寸法	ふるいを通るものの質量百分率 (%)									
		25	20	15	10	5	2.5	1.2	0.6	0.3	0.15
粒度	細 砂	—	—	—	100	90~100	80~100	50~90	25~65	10~35	2~10
	溶融スラグ	—	—	—	100	90~100	80~100	50~90	25~65	10~35	2~10
品質	粗 砕石	100	90~100	—	20~55	0~10	0~2.5	—	—	—	—
	項目	絶乾密度 (g/cm <sup>3</sup> )	吸水率 (%)	単位容積質量 (kg/l)	実績率 (%)	粒径判定実績率 (%)	微粒分量 (%)	有機不純物	安定性 (%)	スリヘリ減量 (%)	
品質	細 砂	2.5以上	3.5以下	—	—	—	1.5±1.0	標準色より淡い	10以下	—	
	溶融スラグ	2.5以上	3.0以下	—	—	53以上	7%以下	標準色より淡い	10以下	—	
	粗 砕石	2.5以下	3.0以下	1.50以上	55以上	56以上	2.0±1.0	—	12以下	40以下	
産地 : 細骨材(砂・山本郡八峰町峰浜)、(溶融スラグ・秋田市総合環境センター) 粗骨材(砕石・大館市粕田)											

※ 骨材は無害な骨材,又はアルカリ総量で3.0kg/m<sup>3</sup>

混和剤種類	品名	外観	比重	減水率	ブリージング量の比
AE減水剤標準型 I 種	ヤマゾー90SE	暗褐色液体	1.16~1.20	10以上	70以下
製造元 : 山宗化学 株式会社					

鉄線種類	線径 (mm)	2.60	3.20	4.00	5.00	6.00
		SWM-P	許容差 (mm)	±0.06	±0.08	
JIS G 3532	引張強さ (N/mm <sup>2</sup> )	540以上				
メーカー : 青森昭和産業 株式会社						

鉄筋コンクリート用棒鋼種類	項目	呼び名 (mm)	許容差 (mm)	降伏点 (N/mm <sup>2</sup> )	引張り強さ (N/mm <sup>2</sup> )	伸び (%)	曲げ試験
熱間圧延丸鋼 SR235 JIS G 3112		9	JIS G 3112 に適合 すること	235以上	380~520	20以上 (2号試験片)	曲げ角度は180° 常温で 曲げて、外観に亀裂を生 じてはならない。
		13					
熱間圧延丸鋼 SD295 JIS G 3112		16		295以上	440~600	16以上 (2号試験片)	
		19					
		D6					
		D10					
	D13						
	D16						
	D19						
メーカー : 青森昭和産業 株式会社 製造元 : 北越メタル株式会社、株式会社 伊藤製鐵所							

原本と相違ない事を証明します。

田中コンクリート工業(株)

東北工場



## アルカリ骨材反応抑制対策について

JIS A 5308 付属書B(規定)アルカリシリカ反応抑制対策の方法 B.2 区分の3項の対策のうち、何れか1つにて確認頂くことになっております。

- a) コンクリート中のアルカリ総量を規制する抑制対策
- b) アルカリシリカ反応抑制効果のある混合セメントなどを使用する抑制対策
- c) 安全と認められる骨材を使用する抑制対策

上記により、当工場では、a)「コンクリート中のアルカリ総量を規制する抑制対策」にて管理し対策を講じていることをご報告致します。

原本と相違ない事を証明します

田中コンクリート工業(株)

東北工場

田中コンクリート工業株式会社  
東北工場

コンクリート中のアルカリ総量計算

令和 7 年 11 月

1配合 (示方配合による)

工場長	QCM	係
		

配合の種類	セメントの種類	単位量 (kg/m <sup>3</sup> )					
		水 W	セメント C	細骨材 S1	スラグ S2	粗骨材 G	混和剤 AE
スラグ	普通	157	361	508	187	1145	1.81

2材料中の全アルカリ量 (Na<sub>2</sub>O換算値:試験成績表による) 及び骨材中の塩化物量

試験月 種類	11 月分	10 月分	9 月分	8 月分	7 月分	6 月分	6ヶ月間の最大値
普通セメント	0.52	0.57	0.56	0.60	0.57	0.55	0.60 ✓

項目 材料名	セメント	細骨材(S1)	細骨材(S2)	混和材	混和剤	流動化剤
全アルカリ量	0.6	—	—	—	3.5	—
塩化物量(NaCl)	—	0.001	0.001	—	—	—

※ セメントは直近6ヶ月間の最大値の値  
 ※ セメント以外は最新の試験成績表に示される値

計 算 式	計 算 結 果
コンクリート中のセメントに含まれるアルカリ量 (kg/m <sup>3</sup> ) ① Rc = (単位セメント量 × (セメント中の全アルカリ量 ÷ 100)) $= 361 \times \frac{0.6}{100}$	①=Rc 2.166
コンクリート中の混和材に含まれるアルカリ量 (kg/m <sup>3</sup> ) ② Ra = 単位混和材量 × (混和材中の全アルカリ量 ÷ 100)	②=Ra —
コンクリート中の骨材(細骨材)に含まれるアルカリ量 (kg/m <sup>3</sup> ) ③ Rs = 単位骨材量(細骨材S1) × 0.53 × (骨材中のNaClの量 ÷ 100) + 単位骨材量(細骨材S2) × 0.53 × (骨材中のNaClの量 ÷ 100) $= 508 \times 0.53 \times \frac{0.001}{100} + 187 \times 0.53 \times \frac{0.001}{100}$	③=Rs 0.0037
コンクリート中の混和剤に含まれるアルカリ量 (kg/m <sup>3</sup> ) ④ Rm = 単位混和剤量 × (混和剤中の全アルカリ量 ÷ 100) $= 1.81 \times \frac{3.5}{100}$	④=Rm 0.0634
流動化剤を添加する場合は、コンクリート中の流動化剤に含まれるアルカリ量 (kg/m <sup>3</sup> ) ⑤ Rp = 単位流動化剤量 × (流動化剤中の全アルカリ量 ÷ 100)	⑤=Rp —
コンクリート中のアルカリ総量 (kg/m <sup>3</sup> ) Rt = ①+②+③+④+⑤	判定基準 Rt = 3.0 kg/m <sup>3</sup> 以下 Rt 2.2330 ≒ 2.2 ✓
判定	3.0 kg/m <sup>3</sup> 以下なので (適) 否

原本と相違ない事を説明します

田中コンクリート工業(株)  
 東北工場

田中コンクリート工業(株) 東北工場

#### 4. 原材料品質証明書

①. セメント

②. 骨材

絶乾密度及び吸水率試験

安定性

すりへり試験

粒度試験

粒形判定実績率試験

微粒分量試験

有機不純物試験

アルカリシリカ反応性試験

環境安全品質試験

化学分析試験

膨張率試験

③. 水

④. 混和剤料

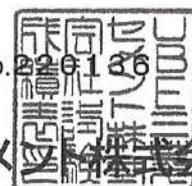
⑤. 鉄筋

## セメント試験成績表

No. 229186

2025年11月度

UBE三菱セメント株式会社



種類	普通ポルトランドセメント JIS R 5210				早強ポルトランドセメント JIS R 5210				高炉セメント B種 JIS R 5211				
	JIS 規格値	試験成績			JIS 規格値	試験成績			JIS 規格値	試験成績			
		平均値	標準偏差	最大値 (最小値)		平均値	標準偏差	最大値 (最小値)		平均値	標準偏差	最大値 (最小値)	
密度 g/cm <sup>3</sup>	—	3.16	—	—	—	3.14	—	—	—	3.04	—	—	
比表面積 cm <sup>2</sup> /g	2500以上	3270	76	—	3300以上	4590	80	—	3000以上	3980	82	—	
凝結	水量 %	—	28.2	—	—	30.6	—	—	—	30.3	—	—	
	始発 h-min	60min以上	2-15	—	(1-50)	45min以上	1-48	—	(1-15)	60min以上	2-53	—	(2-25)
	終結 h-min	10h以下	3-22	—	4-10	10h以下	2-46	—	3-10	10h以下	4-07	—	5-15
安定性	バット法	良	良	—	—	良	良	—	—	良	良	—	—
圧縮強さ N/mm <sup>2</sup>	1 d	—	—	—	—	10.0以上	25.7	1.45	—	—	—	—	
	3 d	12.5以上	31.8	1.54	—	20.0以上	47.4	1.64	—	10.0以上	22.0	1.45	—
	7 d	22.5以上	46.4	1.73	—	32.5以上	58.6	1.82	—	17.5以上	34.7	1.66	—
	28 d	42.5以上	61.4	1.83	—	47.5以上	67.8	1.96	—	42.5以上	62.9	1.96	—
水和熱 J/g	7 d	—	333	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	28 d	—	383	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
化学成分 %	酸化マグネシウム	5.0以下	1.40	—	2.53	5.0以下	1.00	—	1.22	6.0以下	3.19	—	4.28
	三酸化硫黄	3.5以下	2.41	—	2.65	3.5以下	2.82	—	2.98	4.0以下	2.14	—	2.24
	強熱減量	5.0以下	2.59	—	2.94	5.0以下	1.40	—	1.89	5.0以下	1.63	—	2.14
	全アルカリ	0.75以下	0.47	—	0.52	0.75以下	0.45	—	0.61	—	—	—	—
	塩化物イオン	0.035以下	0.023	—	0.029	0.02以下	0.010	—	0.015	—	0.013	—	—

備考 ○ ポルトランドセメント（全アルカリの最大値のうち直近6ヶ月の最大の値）

- ・普通ポルトランドセメント…………… 0.60%
- ・早強ポルトランドセメント…………… 0.64%

原本と相違ない事を証明します

○ 高炉セメント B種

- ・ベースセメントの全アルカリ…………… 0.47%
- ・高炉スラグの分量…………… 40~45%

田中コンクリート工業(株)

東北工場

1. 試験方法は JIS R 5201, JIS R 5202, JIS R 5203, JIS R 5204 による。
2. 28d圧縮強さおよび28d水和熱は前月度の値を示す。

◎ お問い合わせその他のご連絡先

〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-1-25

JRE東二番丁スクエア12F

UBE三菱セメント株式会社

東北支店

TEL 022-711-5714



## 細骨材試験成績表

工場長	QCM	担当
		

令和 7年 11月 度

骨材の種類	砂
骨材の産地	秋田県山本郡八峰町峰浜

細骨材の密度・吸水率試験				JIS A 1109	
実施日	令和 7年 11月 4日	火曜日	天候	晴れ	
温度・湿度	室温	湿度	水槽の水温	乾燥機の温度	
	16℃	70%	20℃	105℃	
測定番号			1	2	
①500mlの目盛まで水を満たしたフラスコの質量	(g)	672.3	651.1		
②密度試験用試料の質量	(g)	500.0	500.0		
③試料と水で500mlの目盛まで満たしたフラスコの質量	(g)	978.5	956.5		
④水の温度	(℃)	20	20		
⑤水の密度	(g/cm <sup>3</sup> )	0.9982	0.9982		
⑥表乾密度 (②*⑤)/(①+②-③)	(g/cm <sup>3</sup> )	2.575	2.565		
⑦平均値	(g/cm <sup>3</sup> )	2.57 (2.570)		✓	
平均値からの差	0.01g/cm <sup>3</sup> 以下	0.01	0.01		
⑧合否判定	2.58±0.02g/cm <sup>3</sup>	合格		✓	
⑨表面乾燥飽水状態の吸水率試験用試料の質量	(g)	500.0	500.0		
⑩乾燥後の吸水率試験用試料の質量	(g)	492.5	492.2		
⑪吸水率 (⑨-⑩)/⑩*100	(%)	1.523	1.585		
⑫平均値	(%)	1.55 (1.554)		✓	
平均値からの差	0.05%以下	0.03	0.03		
⑬合否判定	3.0%以下	合格		✓	
⑭絶乾密度 ⑥*(⑩/⑨)	(g/cm <sup>3</sup> )	2.536	2.525		
⑮平均値	(g/cm <sup>3</sup> )	2.54 (2.531)		✓	
平均値からの差	0.01g/cm <sup>3</sup> 以下	0.01	0.01		
⑯合否判定	2.5g/cm <sup>3</sup> 以上	合格		✓	

細骨材の微粒分量試験				JIS A 1103	
実施日	令和 7年 11月 5日	水曜日	天候	晴れ	
測定番号			1	2	
①試験前の試料の乾燥質量	(g)	500.0	500.0		
②試験後の試料の乾燥質量	(g)	490.8	491.1		
③網フルイ0.075mmを通過する量 (①-②)/①*100	(%)	1.84	1.78		
④平均値	(%)	1.8 (1.81)		✓	
平均値からの差	0.5%以下	0.0	0.0		
⑤合否判定	3.5%以下	合格		✓	

粘土塊量試験				JIS A 1137	
実施日	令和 7年 11月 6日	木曜日	天候	晴れ	
測定番号			1	2	
①試験前の試料の乾燥質量	(g)	500.0	500.0		
②試験後の試料の乾燥質量	(g)	499.5	499.1		
③粘土塊量 (①-②)/①*100	(%)	0.10	0.18		
④平均値	(%)	0.1 (0.14)		✓	
平均値からの差	0.2%以下	0.0	0.0		
⑤合否判定	1.0%以下	合格		✓	

原本と相違ない事を証明します

田中コンクリート工業(株)

東北工場

田中コンクリート工業 (株) 東北工場

## 細骨材試験成績表

(溶融スラグ)

工場長	QCM	担当
		

令和 7年 11月 度

骨材の種類	細骨材 (溶融スラグ)
骨材の産地	秋田市総合環境センター

細骨材の密度・吸水率試験					JIS A 1109	
実施日	令和 7年 11月 4日	火曜日	天候 晴れ			
温度・湿度	室温	湿度	水槽の水温	乾燥機の温度		
	16℃	70%	20℃	105℃		
測定番号			1	2		
①500mlの目盛まで水を満たしたフラスコの質量	(g)	674.9	680.5			
②密度試験用試料の質量	(g)	500.0	500.0			
③試料と水で500mlの目盛まで満たしたフラスコの質量	(g)	995.3	999.1			
④水の温度	(℃)	20	20			
⑤水の密度	(g/cm <sup>3</sup> )	0.9982	0.9982			
⑥表乾密度 (②*⑤)/(①+②-③)	(g/cm <sup>3</sup> )	2.779	2.751			
⑦平均値	(g/cm <sup>3</sup> )	2.77 (2.765)		✓		
平均値からの差	0.01g/cm <sup>3</sup> 以下	0.01	0.01			
⑧合否判定	2.83g/cm <sup>3</sup> ± 0.10	合格		✓		
⑨表面乾燥飽水状態の吸水率試験用試料の質量	(g)	500.0	500.0			
⑩乾燥後の吸水率試験用試料の質量	(g)	498.2	498.5			
⑪吸水率 (⑨-⑩)/⑩*100	(%)	0.361	0.301			
⑫平均値	(%)	0.33 (0.331)		✓		
平均値からの差	0.05%以下	0.03	0.03			
⑬合否判定	3.0%以下	合格		✓		
⑭絶乾密度 ⑥*(⑩/⑨)	(g/cm <sup>3</sup> )	2.769	2.743			
⑮平均値	(g/cm <sup>3</sup> )	2.76 (2.756)		✓		
平均値からの差	0.01g/cm <sup>3</sup> 以下	0.01	0.01			
⑯合否判定	2.5g/cm <sup>3</sup> 以上	合格		✓		

細骨材の微粒分量試験					JIS A 1103	
実施日	令和 7年 11月 5日	水曜日	天候 晴れ			
測定番号			1	2		
①試験前の試料の乾燥質量	(g)	500.0	500.0			
②試験後の試料の乾燥質量	(g)	484.2	484.5			
③網フルイ0.075mmを通過する量 (①-②)/①*100	(%)	3.16	3.10			
④平均値	(%)	3.1 (3.13)		✓		
平均値からの差	0.5%以下	0.0	0.0			
⑤合否判定	3.0% ± 2.0	合格		✓		

粒形判定実績率					JIS A 5005	
実施日	令和 7年 11月 6日	木曜日	天候 晴れ			
測定番号			1	2		
①マスの容積	(ℓ)	1.992	1.992			
②マスの質量	(kg)	1.096	1.096			
③試料+マスの質量	(kg)	4.090	4.096			
④単位容積質量 (③-②)/①	(kg/ℓ)	1.503	1.506			
⑤平均値	(kg/ℓ)	1.50 (1.505)				
平均値からの差	0.01kg/ℓ以下	0.00	0.00			
⑥実績率 ④/絶乾密度*100	(%)	54.28	54.90			
⑦平均値	(%)	54.6 (54.59)		✓		
⑧合否判定	53%以上	合格		✓		

原本と相違ない事を証明します

田中コンクリー



田中コンクリート工業 (株) 東北工場

# 粗骨材試験成績表

R7.11

工場長	QCM	担当
		

令和 7年 11月 度

骨材の種類	砕石2005		
骨材の産地	秋田県大館市粕田		
粗骨材の密度・吸水率試験		JIS A 1110	
実施日	令和 7年 11月 4日	火曜日	天候 晴れ
温度・湿度	室温	湿度	水槽の水温
	16℃	70%	20℃
測定番号		1	2
①表乾状態の試料の質量	(g)	2529.4	2528.2
②水中のカゴと試料の質量	(g)	1966.5	1963.2
③水中のカゴの質量	(g)	359.5	359.6
④水の温度	(℃)	20	20
⑤水の密度	(g/cm <sup>3</sup> )	0.9982	0.9982
⑥表乾密度 (①*⑤)/(①-②+③)	(g/cm <sup>3</sup> )	2.737	2.729
⑦平均値	(g/cm <sup>3</sup> )	2.73 (2.733) ✓	
平均値からの差	0.01g/cm <sup>3</sup> 以下	0.00	0.00
⑧合否判定	2.72±0.02g/cm <sup>3</sup>	合格 ✓	
⑨乾燥後の試料の質量	(g)	2488.3	2487.9
⑩吸水率 (①-⑨)/⑨*100	(%)	1.662	1.626
⑪平均値	(%)	1.64 (1.644) ✓	
平均値からの差	0.03%以下	0.02	0.02
⑫合否判定	3%以下	合格 ✓	
⑬絶乾密度 (⑨*⑤)/(①-②+③)	(g/cm <sup>3</sup> )	2.693	2.686
⑭平均値	(g/cm <sup>3</sup> )	2.69 (2.690) ✓	
平均値からの差	0.01g/cm <sup>3</sup> 以下	0.00	0.00
⑮合否判定	2.5g/cm <sup>3</sup> 以上	合格 ✓	
粗骨材の微粒分量試験		JIS A 1103	
実施日	令和 7年 11月 5日	水曜日	天候 晴れ
測定番号		1	2
①試験前の試料の乾燥質量	(g)	2523.2	2522.5
②試験後の試料の乾燥質量	(g)	2521.8	2518.4
③網フルイ0.075mmを通過する量 (①-②)/①*100	(%)	0.055	0.163
④平均値	(%)	0.11 (0.109) ✓	
平均値からの差	0.5%以下	0.1	0.1
⑤合否判定	3.0%以下	合格 ✓	
粒形判定実績率		JIS A 5005	
実施日	令和 7年 11月 6日	木曜日	天候 晴れ
測定番号		1	2
①マスの容積	(ℓ)	10.003	10.003
②マスの質量	(kg)	4.008	4.008
③試料+マスの質量	(kg)	20.211	20.297
④単位容積質量 (③-②)/①	(kg/ℓ)	1.620	1.628
⑤平均値	(kg/ℓ)	1.62 (1.624)	
平均値からの差	0.01kg/ℓ以下	0.00	0.00
⑥実績率 ④/絶乾密度*100	(%)	60.16	60.61
⑦平均値	(%)	60.4 (60.39) ✓	
⑧合否判定	56%以上	合格 ✓	

田中コンクリート工業 (株) 東北工場

原本と相違ない事を証明します  
 田中コンクリート工業(株)  
 東北工場



試験規格		硫酸ナトリウムによる細骨材の安定性試験表				
JIS A 1122:2014						
試験年月日		令和7年12月1日～12月6日				
試験実施場所		技術研修センター 試験室・恒温室				
試料	No.	S-15737				
	工場名	田中コンクリート工業株式会社 東北工場				
	種類	砂				
	産地	山本郡八峰町峰浜沼田字ホナン沼端4-6				
	採取月日	令和7年11月21日				
とどまる ふるい	通るふるい	各群の 質量分率	試験前の各 群の質量	試験後の各 群の質量	各群の損失 質量分率	骨材の損失 質量分率
(mm)	(mm)	(%)	(g)	(g)	(%)	(%)
—	0.075	0	—	—	—	—
0.075	0.15	2	—	—	—	—
0.15	0.3	26	—	—	—	—
0.3	0.6	39	100.0	97.9	2.1	0.8
0.6	1.2	16	100.0	97.6	2.4	0.4
1.2	2.5	8	100.0	97.9	2.1	0.2
2.5	5	7	100.0	98.5	1.5	0.1
5	10	2			1.5	0.0
合計		100				1.5 ✓

秋田県生コンクリート工業組合 技術研修センター

以上

原本と相違ない事を証明します  
 田中コンクリート工業㈱  
 東北工場



25G15738-3/3頁

試験規格		硫酸ナトリウムによる粗骨材の安定性試験表				
JIS A 1122:2014						
試験年月日		令和7年12月1日～12月6日				
試験実施場所		技術研修センター 試験室・恒温室				
試 料	No.	G-15738				
	工場名	田中コンクリート工業株式会社 東北工場				
	種類	砕石 2005				
	産地	大館市粕田				
	採取月日	令和7年11月21日				
とどまる ふるい	通るふるい	各群の 質量分率	試験前の各 群の質量	試験後の各 群の質量	各群の損失 質量分率	骨材の損失 質量分率
(mm)	(mm)	(%)	(g)	(g)	(%)	(%)
5	10	40	301	290	3.7	1.5
10	15	50	501	483	3.6	1.8
15	20	10	751	692	7.9	0.8
20	25	0			7.9	0.0
25	40					
合計		100				4.1 ✓

秋田県生コンクリート工業組合 技術研修センター

以上



原本と相違ない事を証明します

田中コンクリート工業(株)

東北工場

25G15738-2/3頁

試験規格		ロサンゼルス試験機による粗骨材のすりへり試験表	
JIS A 1121 : 2022			
試験年月日		令和7年12月2日	
試験実施場所		技術研修センター 試験室・ロサンゼルス室	
試料	No.	G-15738	
	工場名	田中コンクリート工業株式会社 東北工場	
	種類	碎石 2005	
	産地	大館市粕田	
	採取月日	令和7年11月21日	
とどまるふるい (mm)	通るふるい (mm)	各群の質量分率 (%)	試験前の各群の質量 (g)
60	80		
50	60		
40	50		
25	40		
20	25	0	
15	20	10	
10	15	50	2500
5	10	40	2500
2.5	5	0	
—	2.5	0	
合計		100	5000
試験前の試料の質量 : $m_1$		(g)	5000
粒度区分			C
球の数		(個)	8
球の全質量		(g)	3336
試験後1.7 mmふるいに残った質量 : $m_2$		(g)	4395
すりへり減量 : R		(%)	12.1 ✓
備考			

原本と相違ない事を証明します  
秋田県生コンクリート工業組合 技術研修センター

田中コンクリート工業(株)

東北工場



# 細骨材のふるい分け試験

R7.11

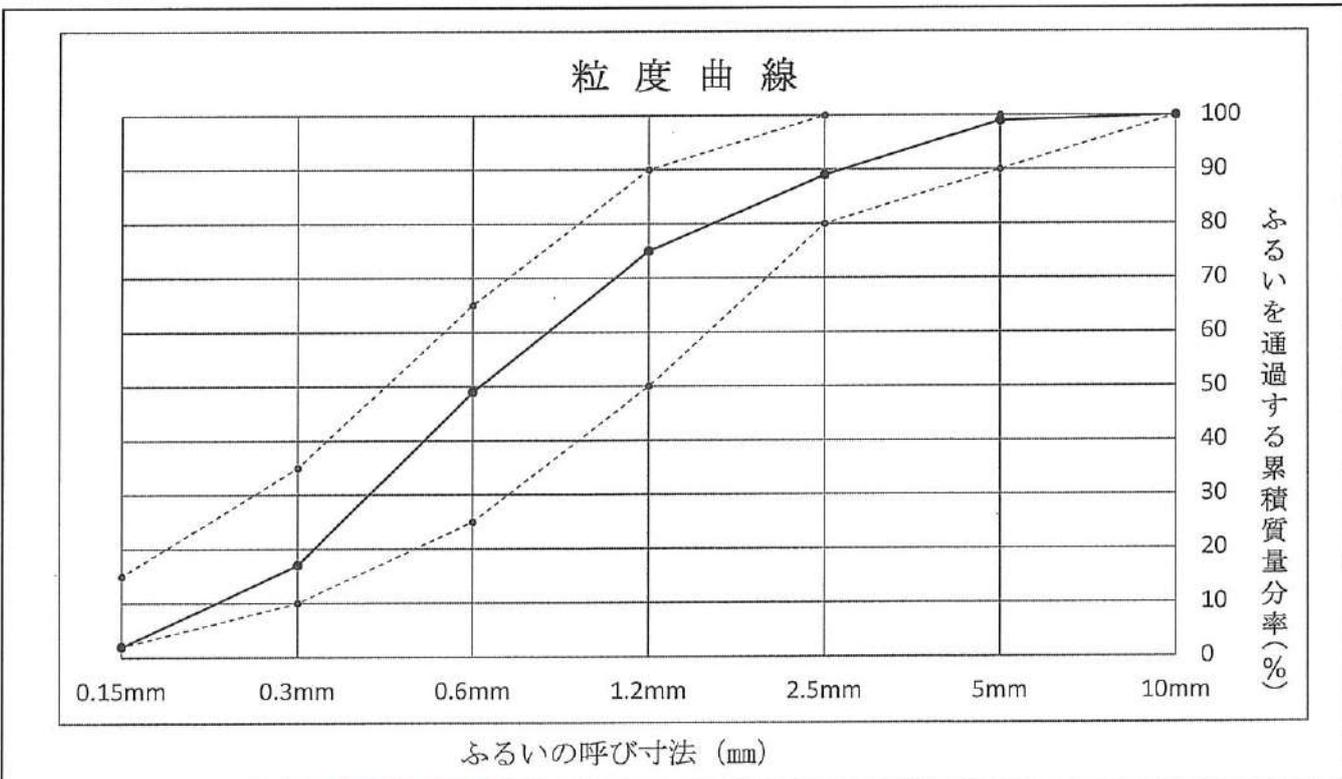
工場長	QCM	担当
		

試験年月日： 令和 7 年 11 月 7 日

種類	砂
産地	秋田県山本郡八峰町峰浜
最大寸法	5.0(mm)
試料の採取場所	工場細骨材ヤード
試料の採取日	令和7年11月6日
ふるい分け前の試料の質量	501.7 (g)
ふるい分け方法	手動

ふるいの呼び寸法(mm)	10	5	2.5	1.2	0.6	0.3	0.15	>	合計
各ふるいの残留量(g)	0	6.2	47.8	69.4	133.8	157.8	75.7	9.9	500.6
各ふるいの残留率(%)	0	1.2	9.5	13.9	26.7	31.5	15.1	2.0	100
累積残留率(%)	0	1	11	25	51	83	98	100	
ふるい通過率(%)	100	99	89	75	49	17	2	0	
粒度範囲(%)	100	90~100	80~100	50~90	25~65	10~35	2~15		

項目	規格値	実測値	判定
試料質量差	1%未満	0.2 ✓	合 ✓
粗粒率(FM)	2.70±0.15	2.69 ✓	合 ✓



原本と相違ない事を証明します  
 田中コンクリート工業株式会社  
 東北工場

田中コンクリート工業株式会社 東北工場

## 細骨材のふるい分け試験

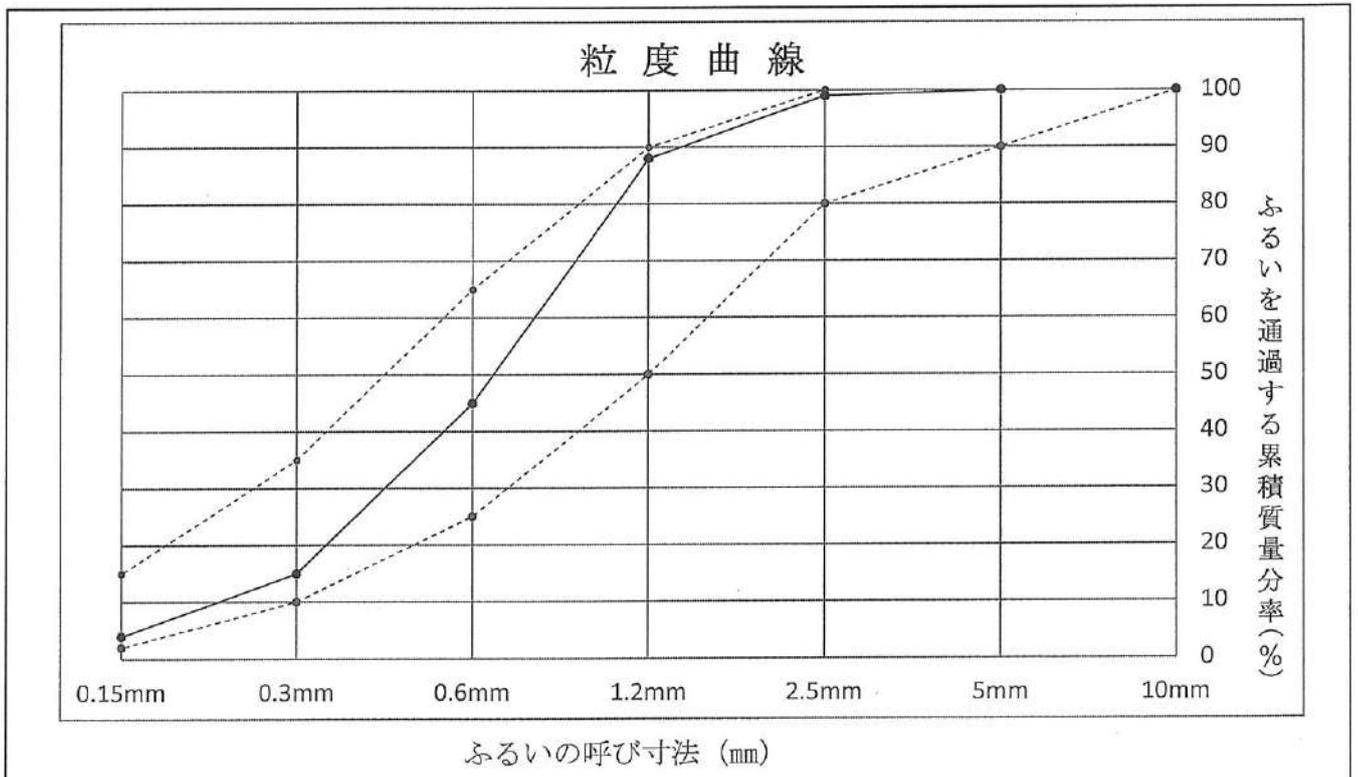
工場長	QCM	担当
		

試験年月日： 令和 7年 11月 7日

種類	熔融スラグ
産地	秋田市総合環境センター
最大寸法	5.0(mm)
試料の採取場所	工場スラグ骨材ヤード
試料の採取日	令和7年11月6日
ふるい分け前の試料の質量	502.9 (g)
ふるい分け方法	手動

ふるいの呼び寸法(mm)	10	5	2.5	1.2	0.6	0.3	0.15	>	合計
各ふるいの残留量(g)	0	0	0	60.5	257.1	124.5	44.8	14.9	501.8
各ふるいの残留率(%)	0	0	0	12.1	51.2	24.8	8.9	3	100
累積残留率(%)	0	0	0	12	63	88	97	100	
ふるい通過率(%)	100	100	100	88	37	12	3	0	
粒度範囲(%)	100	90~100	80~100	50~90	25~65	10~35	2~15		

項目	規格値	実測値	判定
試料質量差	1%未満	0.2 ✓	合✓
粗粒率(FM)	2.60±0.20	2.60 ✓	合✓



原本と相違ない事を証明します  
 田中コンクリート工業(株)  
 東北工場

田中コンクリート工業株式会社 東北工場

## 粗骨材のふるい分け試験

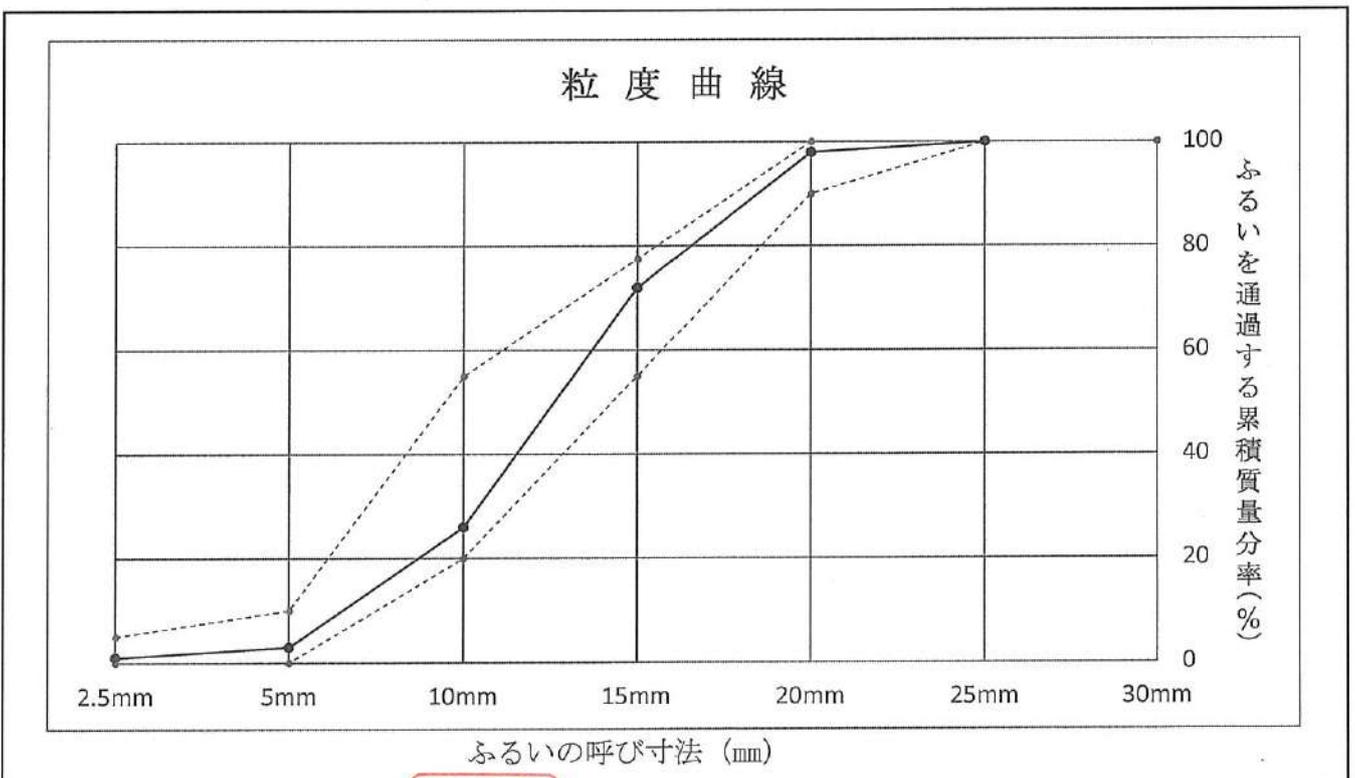
工場長	QCM	担当
		

試験年月日： 令和 7年 11月 7日

種類	碎石2005
産地	秋田県大館市粕田
最大寸法	20.0 (mm)
試料の採取場所	工場粗骨材ヤード
試料の採取日	令和7年11月6日
ふるい分け前の試料の質量	5021 (g)
ふるい分け方法	手動

ふるいの呼び寸法 (mm)	30	25	20	15	10	5	2.5	>	合計
各ふるいの残留量 (g)		0	114	1269	2290	1157	121	48	4999
各ふるいの残留率 (%)		0	2.3	25.4	45.8	23.1	2.4	1	100
累積残留率 (%)		0	2	28	74	97	99	100	
ふるい通過率 (%)		100	98	72	26	3	1	0	
粒度範囲 (%)		100	90~100		20~55	0~10	0~5		

項目	規格値	実測値	判定
試料質量差	1%未満	0.4 ✓	合 ✓
粗粒率 (FM)	6.68±0.20	6.72 ✓	合 ✓



原本と相違ない事を証明します  
 田中コンクリート工業(株)  
 東北工場

田中コンクリート工業株式会社 東北工場

## 細骨材の試験結果報告書

田中コンクリート工業株式会社 東北工場 御中

試験番号 25S15737-1/4頁

発行日 令和7年12月9日

〒011-0904 秋田市寺内蛭根1-15-18

秋田県生コンクリート工業組合 技術研修センター

TEL 018-824-5540, FAX 018-823-8339

承認署名者・所長 木村 敏彦



件名		
顧客名称	田中コンクリート工業株式会社 東北工場	
顧客住所	秋田県大館市二井田字菖蒲沼28	
試験品目	種類 ※	砂
	産地 ※	山本郡八峰町峰浜沼田字ホナン沼端4-6
	採取場所 ※	田中コンクリート工業株式会社 東北工場 ストックヤード
	採取者 ※	土濃塚 康隆
	採取月日 ※	令和7年11月21日
	その他 ※	
	受入れ時の状態	持込み・土嚢袋1袋(約25 kg)
	受領年月日	令和7年11月21日

上記試験品目の試験結果は、下記の通りであることを証明いたします。

試験項目及び試験方法	試験結果
有機不純物 JIS A 1105:2015	試験年月日：令和7年12月2日 試験実施場所：技術研修センター 計量室 標準色より淡い ✓
塩化物量 JIS A 5308:2024 附属書JA JA.10p)	0.001% ✓ ☆詳細は3頁のとおり
安定性 JIS A 1122:2014	1.5% ✓ ☆詳細は4頁のとおり
備考	・上記試験項目は、全国生コンクリート工業組合連合会認定試験項目である。

注1) 本書の試験結果は、本書中に記載の試料についてのみ有効です。

2) ※印の記載は、顧客の申告による。

3) 本報告書は、秋田県生コンクリート工業組合技術研修センターの文書による承認なしでは、完全な複製を除き、試験報告書の一部だけを複製しないで下さい。

原本と相違ない事を証明します

田中コンクリート工業株式会社

東北工場



工場長	QCM	係
半沢	土濃塚	長田



110322JP

株式会社青森グローバル産業 御中

## 骨材のアルカリシリカ反応性試験結果報告書

試験番号 25C5943-1/1頁

発行日 令和7年11月13日

〒011-0904 秋田市寺内蛭根1-15-18

秋田県生コンクリート工業組合技術研修センター

TEL 018-824-5540, FAX 018-823-8339

承認署名者・所長



件名		
顧客名称	株式会社青森グローバル産業	
顧客住所	青森県西津軽郡深浦町大字大間越字笥46番地4	
試験品目	種類※	混合砂
	産地※	山本郡八峰町峰浜沼田地内
	採取場所※	山本郡八峰町峰浜沼田字ホナン沼端4-6
	採取者※	浅野 敏美
	採取月日※	令和7年11月4日
	製造業者※	株式会社青森グローバル産業
	その他※ (採取立会者)	日本海コンクリート株式会社 加賀谷 禎 田中コンクリート工業株式会社 土濃塚 康隆 株式会社男鹿萬年 戸嶋 勝彦
	受入れ時の状態	持込み・土嚢袋2袋(約50 kg)
	受領年月日	令和7年11月4日

上記試験品目の試験結果は、下記の通りであることを証明いたします。

試験年月日	令和7年11月11日～11月12日				
試験実施場所	技術研修センター計量室				
試験方法	JIS A 1145:2022「骨材のアルカリシリカ反応性試験方法(化学法)」 但し、溶解シリカ量の定量は原子吸光光度法により行った。				
試験項目	試験結果 (mmol/L)				判定
	1	2	3	平均値	
アルカリ濃度減少量 (Rc)	59	57	57	58	無害✓
溶解シリカ量 (Sc)	50	50	49	50	

判定は、JIS A 1145:2022 11 骨材のアルカリシリカ反応性の判定による。

この判定には、試験における測定の不確かさを考慮していません。原本と相違ない事を証明します

注1) 本書の試験結果は、本書中に記載の試料についてのみ有効です。

田中コンクリート工業(株)

2) ※印の記載は、顧客の申告による。

3) 本報告書は、秋田県生コンクリート工業組合技術研修センターの文書による承認なしでは、  
完全な複製を除き、試験報告書の一部だけを複製しないで下さい。

以上



工場長	QCM	係

原本と相違ないことを証明します。

令和7年11月13日

秋田市寺内蛭根1-15-18

秋田県生コンクリート工業組合

技術研修センター

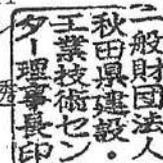


調定番号 25-0446  
令和 7 年 9 月 19 日

秋田県大館市花岡町字大森山下 67 番地  
白川建設株式会社 様

秋田県秋田市新屋町字砂奴寄 4 番地の 11  
一般財団法人秋田県建設・工業技術センター  
工業材料試験センター

理事長 川 辺 透



## 試 験 報 告 書

調定番号 25-0446 でご依頼のありました試験の結果を次のとおり報告します。  
なお、1. 試料の名称、2. 産地又は製造者名、4. 工事名等は、依頼者の資料によります。

- |             |   |
|-------------|---|
| 1. 試料名称     | 砕石 2005   |
| 搬入日         | 令和 7 年 9 月 4 日  |
| サンプリング      | 依頼者が持ち込んだ状態のまま試験実施  |
| 2. 産地又は製造者名 | 大館市粕田産  |
| 3. 試験依頼日    | 令和 7 年 9 月 4 日  |
| 4. 工事名等     | —   |
| 5. 試験項目     | 骨材のアルカリシリカ反応性試験 (化学法)   |
| 6. 試験場所     | 一般財団法人 秋田県建設・工業技術センター 工業材料試験センター  |
| 7. 試験結果     | 別紙のとおり  |
| 8. 報告書発行責任者 | 品質管理者 佐藤 愁子  |

### 備考

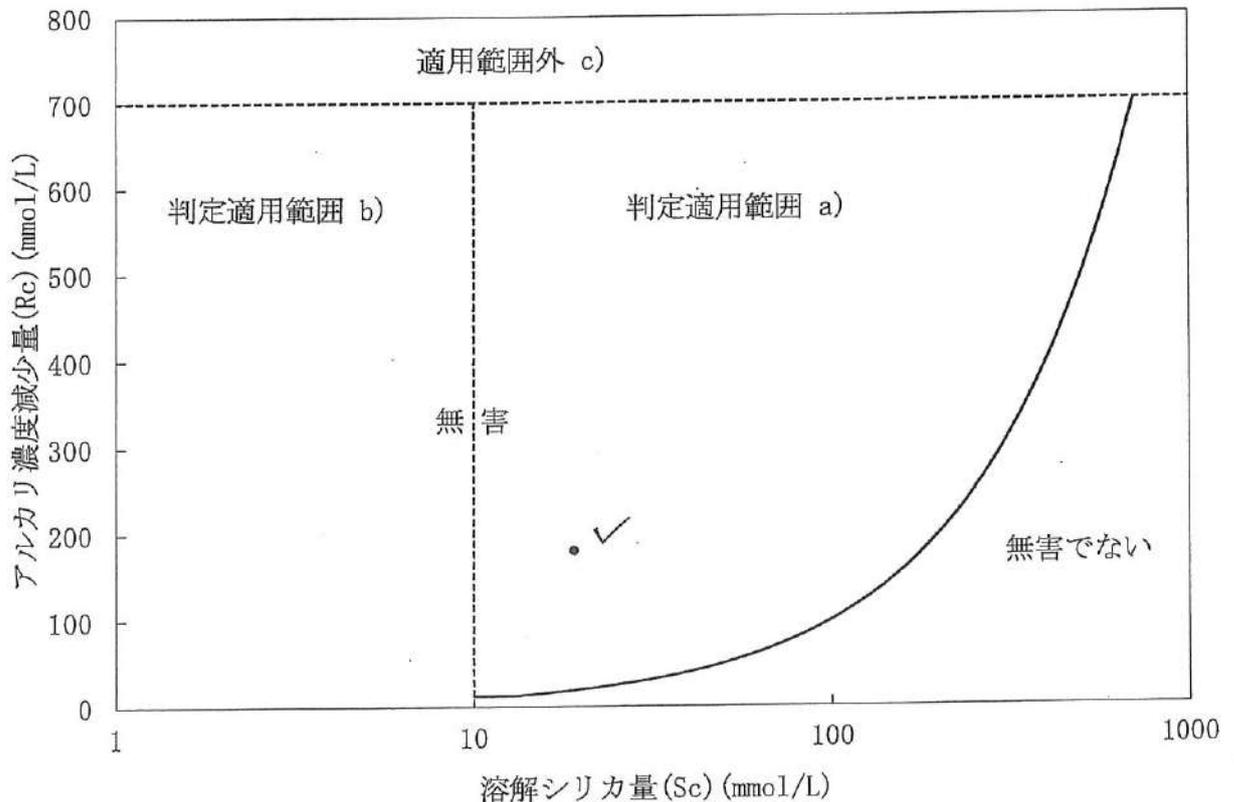
本報告書の試験結果は、依頼された試料についてのみ有効です。原本と相違ない事を証明します  
以下余白

田中コンクリート工業(株)  
東北工場

調定番号 25-0446	<b>骨材のアルカリシリカ反応性試験(化学法)</b>	2/2
依頼者	白川建設株式会社	
試料名	碎石2005	
試験日	令和7年9月17日	室温 25 °C
試験者	佐藤 愁子	
試験方法	JIS A 1145	

試験項目	試験結果(mmol/L)				判定
	1	2	3	平均値	
アルカリ濃度減少量 (Rc)	180	182	182	181	無害 ✓
溶解シリカ量 (Sc)	19	19	19	19	

判定は、「a)溶解シリカ量(Sc)が10mmol/L以上で、アルカリ濃度減少量(Rc)が700mmol/L未満の範囲では、溶解シリカ量(Sc)がアルカリ濃度減少量(Rc)未満となる場合、その骨材を”無害”と判定し、溶解シリカ量(Sc)がアルカリ濃度減少量(Rc)以上となる場合、その骨材を”無害でない”と判定する。」による。



備考  
なし

原本と相違ない事を証明します  
田中コンクリート工業(株)  
東北工場



工場長	QCM	係



# 分析結果報告書

日鉄環境エネルギーサービス株式会社

発行日：2025年10月24日  
報告書番号：第CE5B002764号

件名 スラグの分析・測定業務

**日鉄環境株式会社**



分析ソリューション事業本部  
東日本センター 釜石環境分析  
〒026-8567 岩手県釜石市錦

TEL 0193-22-2141 FAX 0193-22-5989

試料名 溶融スラグ (含有試験)

受付日 2025年10月7日 受付方法 宅配便

採取日 2025年10月6日

採取者 日鉄環境エネルギーサービス株式会社

採取状況

採取場所 秋田市総合環境センター

ご依頼の試料について分析した結果を、次の通り報告します。

分析項目	単位	分析結果	分析方法
1 鉛	mg/kg	3	JIS K 0102-3(2022) 13.5 ICP質量分析法
2 777	mg/kg	5未満	JIS K 0102-2(2022) 9.5 4-ヒドロキシカルボン酸-ピラゾールの吸光度分析法
3 ふっ素	mg/kg	290	JIS K 0102-2(2022) 5.4 流れ分析法(フッゲン-アリヂリンコンプレキッ染色)
- 以下余白 -			
備考			

原本と相違ない事を証明します  
田中コンクリート工業(株)  
東北工場



工場長	QCM	係

# 試験分析報告書

日鉄環境エネルギーサービス株式会社 様

発行日：2025年10月24日  
報告書番号：25-1010-1-3

件名 スラグの分析・測定業務  
 試料名 熔融スラグ 化学成分  
 受付日 2025年10月7日 受付方法 宅配便  
 採取日 2025年10月6日  
 採取者 日鉄環境エネルギーサービス株式会社  
 採取場所 秋田市総合環境センター

**日鉄環境株式会社**

分析ソリューション事業本部  
 東日本センター 釜石環境分析室  
 〒026-8567 岩手県釜石市錦町2番15号



TEL 0193-22-2141 FAX 0193-22-5989

ご依頼の試料について分析した結果を、次の通り報告します。

No.	分析の対象	分析の結果	規格値		単位	分析の方法
			コンクリート骨材	道路用材		
1	酸化カルシウム (CaOとして)	35.2	45.0以下	-	%	JIS A 5011-3 附属書A
2	全硫黄 (Sとして)	0.37	2.0以下	-	%	JIS A 5011-3 附属書A
3	三酸化硫黄 (SO3として)	0.1未満	0.5以下	-	%	JIS A 5011-3 附属書A
4	金属鉄 (Feとして)	0.32	1.0以下	1.0以下	%	JIS A 5011-2 附属書A
5	塩化物 (NaClとして)	0.001未満	0.04以下	-	%	JIS A 5011-3 附属書A
6	- 以下余白 -					
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						
備考	※規格値は「令和5年4月付秋田県熔融スラグ使用基準」に基づく					

原本と相違ない事を証明します  
 田中コンクリート工業(株)  
 東本工場



工場長	QCM	係

# 試験分析報告書

日鉄環境エネルギーサービス株式会社 様

発行日：2025年10月24日  
報告書番号：25-1010-2-3

件名 スラッグの分析・測定業務

試料名 溶融スラッグ 外観・粒度・物理的性質

受付日 2025年10月7日 受付方法 宅配便

採取日 2025年10月6日

採取者 日鉄環境エネルギーサービス株式会社

採取場所 秋田市総合環境センター

**日鉄環境株式会社**

分析ソリューション事業本部  
東日本センター 釜石環境分析室  
〒026-8567 岩手県釜石市錦町3番15号



TEL 0193-22-2141 FAX 0193-22-5989

ご依頼の試料について分析した結果を、次の通り報告します。

No.	分析の対象		分析の結果	規格値		単位	分析の方法
				コンクリート骨材	道路用材		
1	絶乾密度		2.81	2.5以上	=	g/cm <sup>3</sup>	JIS A 1109
2	表乾密度		2.82	-	2.45以上	g/cm <sup>3</sup>	JIS A 1109
3	吸水率		0.26	3.0以下	-	%	JIS A 1109
4	粒形判定実績率		55.4	53以上	-	%	JIS A 5005
5	微粒分量		4.6	7.0以下	-	%	JIS A 1103
6	安定性		1.5	10以下	-	%	JIS A 1122
7	有機不純物		低い	-	-	-	JIS A 1105
8	アルカリ反応性		無害	-	-	-	JIS A 1145
9	粗粒率		2.41	-	-	%	JIS A 1102
10	ふるい分け試験 通過質量百分率	10 mm	100	100	-	%	JIS A 1102
11		5.0 mm	100	90~100	100	%	
12		2.5 mm	99	80~100	85~100	%	
13		1.2 mm	89	50~90	-	%	
14		0.6 mm	45	25~65	-	%	
15		0.3 mm	17	10~35	-	%	
16		0.15 mm	9	2~15	-	%	
17		0.075mm	4	-	0~10	%	
18		0.075mm以下	0	-	-	%	
19	- 以下余白 -						
20							
備考	※規格値は「令和5年4月付秋田県溶融スラッグ使用基準」に基づく						

原本と相違ない事を証明します  
田中コンクリート工業(株)  
東北工場



JIS A 1109		細骨材の密度及び吸水率試験方法			
件名	スラグ分析・測定業務	骨材の種類・産地	-		
試料名	熔融スラグ (10月)	最大寸法 (mm)・外観	-		
採取場所	秋田市総合環境センター	試験日	2025年10月15日		
採取日	2025年10月	試験者	小峯 佳隆		
試験室の状態	室温	湿度	-	-	
	22 °C	74 %			
試験結果					
試験番号			1	2	合否
m1	(ビュレター+水)の質量	g	1177.1	1103.8	-
m2	密度試験用試料の表乾質量	g	500.0	500.0	-
-	試験に使用した水の温度	°C	21.0	21.0	-
$\rho_w$	試験に使用した水の密度	g/cm <sup>3</sup>	0.9980	0.9980	-
m3	(ビュレター+水+試料)の質量	g	1499.9	1427.0	-
$d_s$	表乾密度	g/cm <sup>3</sup>	2.82 ✓	2.82 ✓	-
	$\frac{m_2}{m_1 + m_2 - m_3} \times \rho_w$		平均		
			2.82 ✓		
-	表乾密度の平均値からの差	g/cm <sup>3</sup>	0.00	0.00	-
m4	吸水率測定用試料の表乾質量	g	500.0	500.0	-
m5	吸水率測定用試料の絶乾質量	g	498.7	498.7	-
Q	吸水率	%	0.26 ✓	0.26 ✓	-
	$\frac{m_4 - m_5}{m_5} \times 100$		平均		
			0.26 ✓		
-	吸水率の平均値からの差	%	0.00	0.00	-
$d_0$	絶乾密度	g/cm <sup>3</sup>	2.81	2.81	-
	$d_s \times \frac{m_5}{m_4}$		平均		
			2.81 ✓		
-	絶乾密度の平均値からの差	g/cm <sup>3</sup>	0.00	0.00	-
【備考】					
平均値からの差が、密度の場合は0.01g/cm <sup>3</sup> 以下、吸水率の場合は0.05%以下でなければならない。					

原本と相違ない事を証明します  
田中コンクリート工業(株)  
東北工場



工場長	QCM	係

JIS A 1122		硫酸ナトリウムによる骨材の安定性試験方法							
件名	スラグ分析・測定業務	骨材の種類・産地		—					
試料名	熔融スラグ (10月)	最大寸法(mm)・外観		—					
採取場所	秋田市総合環境センター	試験日		2025年10月14日					
採取日	2025年10月	試験者		小峯 佳隆					
試験室の状態	室温	湿度		—		—			
	— °C	— %							
試験結果									
骨材の種類	通るふるい mm	とどまるふるい mm	①各群の 質量分率 %	②試験前 の各群の 質量 g	③試験後 の各群の 質量 g	④各群の損失質量分率 %	⑤骨材の損失質量分率 %		
細骨材	0.15	—	9.1	—	—	— *1	—		
	0.3	0.15	8.5	—	—	— *1	—		
	0.6	0.3	27.9	100.0	98.9	1.1	0.3		
	1.2	0.6	43.0	100.0	98.0	2.0	0.9		
	2.5	1.2	10.5	100.0	96.8	3.2	0.3		
	5	2.5	1.0	—	—	3.2 *2	0.0		
	10	5	0.0	—	—	—	—		
	合計			100.0	—	—	—	1.5	
粗骨材	10	5							
	15	10							
	20	15							
	25	20							
	40	25							
	60	40							
	80	60							
	合計								
【備考】									
*1 : 0.3mmふるいを通過する粒子の損失質量は 0 とした。									
*2 : 実際に試験を行った最も近い群の損失質量分率を採用した。									
原本と相違ない事を証明します									
田中コンクリート工業(株)									
東北工場									
				工場長			OCM	係	

JIS A 5005		コンクリート用碎石及び砕砂（粒形判定実積率試験）				
件名	スラグ分析・測定業務	骨材の種類・産地	—			
試料名	熔融スラグ（10月）	最大寸法（mm）・外観	—			
採取場所	秋田市総合環境センター	試験日	2025年10月22日			
採取日	2025年10月	試験者	小峯 佳隆			
$d_p$ 骨材の絶乾密度	2.81	$g/cm^3$	—			
試験室の状態	室温	湿度	—			
	19 °C	49 %				
条件	試料の状態	試料の詰め方	含水率測定 <sup>*1</sup>		—	
	絶乾状態	棒突き	無			
試験結果						
試験番号			1	2	1	2
V	容器の容積	L	2.00	2.00		
①	容器の質量	kg	1.48	1.48		
②	（試料+容器）の質量	kg	4.58	4.59		
$m_1$	試料質量 $m_1=②-①$	kg	3.10	3.11		
$m_2$	含水率測定に用いた試料の乾燥前の質量	g	—	—		
$m_D$	含水率測定に用いた試料の乾燥後の質量	g	—	—		
T	単位容積質量 $T = \frac{m_1}{V}$ 又は $T = \frac{m_1}{V} \times \frac{m_D}{m_2}$	kg/L	1.55	1.56		
	平均値	kg/L	1.56			
—	平均値からの差 <sup>*2</sup>	kg/L	0.01	0.00		
G	粒形判定実積率 $G = \frac{T}{d_p} \times 100$	%	55.2	55.5		
	平均値	%	55.4			
—	平均値からの差	%	0.2	0.1		
判定		—	—			
【備考】						
*1： 絶乾状態の試料を用いる場合又は試料の含水率が1.0%以下の見込みの場合、含水率の測定は省略してよい。						
*2： 試験は2回行い、その精度は、平均値からの差が0.01kg/L以下でなければならない。						
合			工場長 QCM 係			
(印)						

原本と相違ない事を証明します

田中コンクリート工業(株)

東北工場

JIS A 1103		骨材の微粒分量試験方法				
件名	スラグ分析・測定業務	骨材の種類・産地		—		
試料名	溶融スラグ(10月)	最大寸法(mm)・外観		—		
採取場所	秋田市総合環境センター	試験日		2025年10月15日		
採取日	2025年10月	試験者		小峯 佳隆		
試験室の状態	室温	湿度		—		
	— °C	— %				
試験結果						
試験番号			1	2	1	2
m1	洗う前の試料の乾燥質量	g	603.7	603.2		
m2	洗った後の試料の乾燥質量	g	576.1	580.6		
A	微粒分量 $A = \frac{m1 - m2}{m1} \times 100$	%	4.6	4.5		
	平均値	%	4.6			
—	平均値からの差 *1	%	0.0	0.1		
【備考】						
*1: 試験は2回行い、その精度は平均値からの偏差が細骨材の場合、0.3%以下、粗骨材の場合、0.2%以下でなければならない。						

原本と相違ない事を証明します  
田中コンクリート工業(株)  
東北工場



JIS A 1145		骨材のアルカリシリカ反応性試験方法 (化学法)									
件名	スラグ分析・測定業務					骨材の種類・産地	-				
試料名	溶融スラグ (10月)					最大寸法 (mm)・外観	-				
採取場所	秋田市総合環境センター					試験日	2025年10月15日				
採取日	2025年10月					試験者	恩田 学洋				
試験室の状態		室温			湿度			-			-
		- °C			-%						
試験結果											
試験番号	試料量 g	反応時間 h	アルカリ濃度減少量					溶解シリカ量			判定結果
			V <sub>1</sub> mL	V <sub>2</sub> mL	V <sub>3</sub> mL	Rc mmol/L	平均 mmol/L	W g	Sc mmol/L	平均 mmol/L	
1	25	24	20	18.60	19.10	25	28	0.0005	2	1	無害 <del>無害でない</del>
2	25	24	20	18.50	19.10	30		0.0004	1		
3	25	24	20	18.50	19.10	30		0.0004	1		
アルカリ濃度減少量の定量方法		滴定法 $Rc = \frac{20 \times 0.05 \times F}{V_1} \times (V_3 - V_2) \times 1000$					溶解シリカ量の定量方法		質量法 $Sc = 3330 \times W$		
V <sub>1</sub> : 希釈試料溶液からの分取量		Rc : アルカリ濃度減少量					V <sub>2</sub> : 希釈試料溶液の滴定に要した0.05N-HCl		W : 試料原液5ml中のシリカの質量		
V <sub>3</sub> : 希釈空試験溶液の滴定に要した0.05N-HCl		Sc : 溶解シリカ量									
1N-NaOHのファクター : 1.000							0.05N-HClのファクター (F) : 0.998				
判定基準											
溶解シリカ量 (Sc) が10mmol/L以上で、アルカリ濃度減少量 (Rc) が700mmol/L未満のとき、											
溶解シリカ量 (Sc) が、アルカリ濃度減少量 (Rc) 以上になる場合、											
この骨材は無害でないものと判定し、それ以外の場合を無害と判定する。											
【備考】											
原本と相違ない事を証明します 田中コンクリート工業(株) 東北工場											



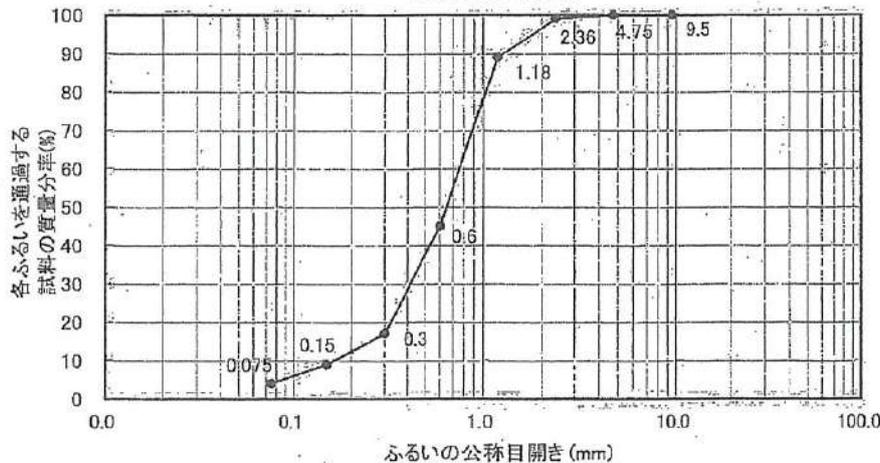
工場長	QCM	係

JIS A 1102	骨材のふるい分け試験方法		
件名	スラグ分析・測定業務	骨材の種類・産地	—
試料名	熔融スラグ (10月)	最大寸法(mm)・外観	—
採取場所	秋田市総合環境センター	試験日	2025年10月10日
採取日	2025年10月	試験者	小峯 佳隆
試験室の状態	室温	湿度	—
	23 °C	41 %	—
ふるい分け前の試料の質量	1041.1 g	ふるい分け方法	機械

試験結果

ふるいの公称目開き	連続する各ふるいの間にとどまる試料の質量 g	連続する各ふるいの間にとどまる試料の質量分率 %	各ふるいごととどまる試料の質量分率 %	各ふるいを通過する試料の質量分率 %
9.5mm (10mm)	0.0	0	0	100
4.75mm (5mm)	0.2	0	0	100
2.36mm (2.5mm)	10.4	1	1	99
1.18mm (1.2mm)	108.7	10	11	89
600 μm (0.6mm)	446.7	44 *1	55	45
300 μm (0.3mm)	289.8	28	83	17
150 μm (0.15mm)	88.2	8	91	9
75 μm (0.075mm)	50.1	5	96	4
75 μm (0.075mm) 以下 以下余白	44.7	4	100	0
合計	1038.8	100	—	—
粗粒率	—	—	2.41	—

【粒度加積曲線図】



【備考】

\*1: 連続する各ふるいの間にとどまる試料の質量分率の総和(%)が100%とならなかった為、JIS A 1102に従って最も大きい質量分率を加減して、調整した値です。

原本と相違ない事を証明します

田中コンクリート工業(株)

東北工場



## 1. 溶融スラグ骨材を用いたモルタルの膨張率試験

(1)試験方法 JIS A 5031:2016 附属書A「溶融スラグ骨材を用いたモルタルの膨張率試験方法」による。

## (2)試験結果

試験No.	4時間後の膨張率(%)	24時間後の膨張率(%)
1	0	-1
2	-0.5	-1
3	0	-1
平均	-0.2	-1

## 2. 溶融スラグ骨材のモルタルによるポップアウト確認試験

(1)試験方法 JIS A 5031:2016 附属書C「溶融スラグ骨材のモルタルによるポップアウト確認試験方法」の煮沸法による。

## (2)試験結果

試験No.	凹部の種類毎の個数 (個)		
	核あり (ポップアウト)	核なし (ポップアウトでない)	判定が困難 (ポップアウトでない)
1	0	0	0
2	0	0	0
3	0	0	0
合計	0	0	0

以上



原本と相違ない事を証明します

田中コンクリート工業(株)

東北工場

# 水 質 試 験 結 果 報 告 書

田中コンクリート工業株式会社 東北工場 御中

試験番号 24水4970-1/3頁  
 発行日 令和6年12月13日  
 〒011-0904 秋田市寺内蛭根1-15-18  
 秋田県生コンクリート工業組合 技術研修センター  
 TEL018-824-5540, FAX018-823-8339  
 承認署名者・所長 木村 敏彦

件名		
顧客	田中コンクリート工業株式会社 東北工場	
顧客住所	大館市二井田字菖蒲沼28	
試験品目	種類※	上水道水以外の水（地下水）
	採取場所※	田中コンクリート工業株式会社 東北工場
	採取者※	土濃塚 康隆
	採取月日※	令和6年11月13日
	受入時の状態	持込み・ペットボトル4L
	受領年月日	令和6年11月13日

上記試験品目の試験結果は、下記の通りであることを証明いたします。

試験方法	JIS A 5308 : 2024 附属書JC	
試験項目	試 験 結 果	
懸濁物質の量	試験年月日	令和6年11月14日
	試験実施場所	技術研修センター 計量室 0.0 g/L ✓
溶解性蒸発残留物の量	試験年月日	令和6年11月14日
	試験実施場所	技術研修センター 計量室 0.3 g/L ✓
塩化物イオン (Cl <sup>-</sup> ) 量	☆詳細は2頁のとおり	13.06 mg/L ✓
セメントの凝結時間の差	始発時間の差	0分
	終結時間の差	5分 ✓
	☆詳細は3頁のとおり	
モルタルの圧縮強さの比	材齢 7日	101% ✓
	材齢 28日	99% ✓
	☆詳細は3頁のとおり	
備考	基準水は精製水を使用した。 ・上記試験項目は、全国生コンクリート工業組合連合会認定試験項目である。	

注1) 本書の試験結果は、本書中に記載の試験品目についてのみ有効です。

2) ※印の記載は、顧客の申告による。

3) 本報告書は、秋田県生コンクリート工業組合技術研修センターの文書による承認なしでは、完全な複製を除き、試験報告書の一部分だけを複製しないで下さい。

原本と相違ない事を証明します

田中コンクリート工業株式会社

東北工場



工場長	QCM	係

24水4970-3/3頁

セメントの凝結時間の差の試験及びモルタルの圧縮強さの比の試験表			
試 料	No.	基 準 水	水-4970
	工 場 名	—————	田中コンクリート工業㈱ 東北工場
	種 類	精 製 水	上水道水以外の水 (地下水)
試 験 方 法		セメントの凝結時間の差の試験 (JIS A 5308 : 2024 附属書JC)	
試 験 実 施 場 所		技術研修センター 恒温室	
試 験 年 月 日		令和 6 年 11 月 15 日	
試 験 値	始発時間	140 分	140 分
	終結時間	200 分	205 分
	始発時間の差	—————	0 分
	終結時間の差	—————	5 分 ✓
試 験 方 法		モルタルの圧縮強さの比の試験 (B法) (JIS A 5308 : 2024 附属書JC)	
試 験 実 施 場 所		技術研修センター 恒温室・試験室	
供 試 体 製 作 月 日		令和 6 年 11 月 14 日	
材 齢 7 日 圧 縮 強 さ 試 験 日		令和 6 年 11 月 21 日	
材 齢 7 日 圧 縮 強 さ (N/mm <sup>2</sup> )		42.3	42.6
材 齢 7 日 圧 縮 強 さ の 比		—————	101 % ✓
材 齢 28 日 圧 縮 強 さ 試 験 日		令和 6 年 12 月 12 日	
材 齢 28 日 圧 縮 強 さ (N/mm <sup>2</sup> )		55.7	55.4
材 齢 28 日 圧 縮 強 さ の 比		—————	99 % ✓
備考			

秋田県生コンクリート工業組合 技術研修センター  
以上

原本と相違ない事を証明します  
田中コンクリート工業㈱  
東北工場



工場長	QCM	係

24水4970-2/3頁

塩化物イオン (Cl <sup>-</sup> ) 量の試験表		
試験方法	塩化物イオン(Cl <sup>-</sup> )量の試験(JIS A 5308:2024 附属書JC) (フレッシュコンクリート中の水の塩化物イオン濃度の 試験方法(電位差滴定法) (JIS A 1144:2010))	
試験年月日	令和6年11月14日	
試験実施場所	技術研修センター 計量室	
試料	No.	水-4970
	工場名	田中コンクリート工業株式会社 東北工場
	種類	上水道水以外の水(地下水)
測定番号	1	2
試料の量: V (mL)	100	100
試験滴定量: a (0.0282 mol/L-AgNO <sub>3</sub> ) (mL)	1.3033	1.3059
0.0282 mol/L-AgNO <sub>3</sub> のファクター: f	1.001	1.001
塩化物イオン (Cl <sup>-</sup> ) 量: C (mg/L)	13.046	13.072
平均値 (mg/L)	13.06 ✓	
備考	機種名: 電位差自動滴定装置AT-710 (京都電子工業株式会社)	

秋田県生コンクリート工業組合 技術研修センター

原本と相違ない事を証明します  
田中コンクリート工業(株)  
東北工場



2025年7月 ~ 2025年12月度 コンクリート用化学混和剤(JIS A 6204)試験結果報告書

田中コンクリート工業(株)  
東北工場

御中



種類 AE減水剤 標準形 I種

商品名 ヤマソー90SE

## 1. コンクリートの試験結果

項目		JIS A 6204 による規定値	形式評価試験値	性能確認試験値	
フレッシュ コンクリート	減水率 %	10以上	15 ✓	15	
	ブリーディング量の比 %	70以下	59 ✓	—	
	ブリーディング量の差 cm <sup>3</sup> /cm <sup>2</sup>	—	—	—	
	凝結時間の差 分	始発	-60 ~ +90	+70 ✓	+50
		終結	-60 ~ +90	+60 ✓	+45
経時変化量	スランプ cm	—	—	—	
	空気量 %	—	—	—	
硬化 コンクリート	圧縮強度比 %	材齢 1日	—	—	
		材齢 2日 (5°C)	—	—	
		材齢 7日	110以上	129 ✓	128
		材齢 28日	110以上	118 ✓	115
長さ変化比 %	120以下	98 ✓	—		
凍結融解に対する抵抗性 (相対動弾性係数 %)	60以上	97 ✓	—		

注記1. 1m<sup>3</sup>当たりの化学混和剤の使用量形式評価試験 1.77 kg/m<sup>3</sup>, 性能確認試験 1.77 kg/m<sup>3</sup>

注記2. 性能確認試験は6か月ごとに1回実施し、この表に表示している試験値は、2025年5月の試験結果である。ただし、圧縮強度の性能確認試験は1年に1回実施し、この表に表示している試験値は、2024年12月の試験結果である。

注記3. この表に表示している形式評価試験は、2021年5月に山宗化学株式会社で実施した試験結果である。

2. 塩化物イオン(Cl<sup>-</sup>)量及び全アルカリ量

項目	JIS A 6204に よる規定値	形式評価試験値	性能確認試験		
			化学混和剤中の 含有量	1m <sup>3</sup> 当たりの化学 混和剤の使用量	試験値
塩化物イオン(Cl <sup>-</sup> )量	0.02 kg/m <sup>3</sup> 以下	0.00 kg/m <sup>3</sup>	0.01 %	1.77 kg/m <sup>3</sup>	0.00 kg/m <sup>3</sup> ✓
全アルカリ量	0.30 kg/m <sup>3</sup> 以下	0.06 kg/m <sup>3</sup>	3.7 %	1.77 kg/m <sup>3</sup>	0.07 kg/m <sup>3</sup> ✓

注記1. 性能確認試験は6か月ごとに1回実施し、この表に表示している試験値は、2025年5月の試験結果である。

注記2. この表に表示している形式評価試験は、2021年5月に山宗化学株式会社で実施した試験結果である。

## 3. その他の項目

項目	規格値	試験値
密度 (g/cm <sup>3</sup> , 20°C)	1.16 ~ 1.20	1.18 ✓

注記 この表に表示している試験値は、2025年5月の試験結果である。

原本と相違ない事を証明します

田中コンクリート工業(株)



# コンクリート用鉄線 (SWM-P) 検査証明書

証明書番号 202511-P005

2025年11月4日発行

JIS G 3532

納入先 田中コンクリート工業(株) 御中

青森昭和産業株

〒036-1325 青森県弘前市大字一町

TEL (0172) 82-4611 (代) FAX (0172) 82-4511



古山

線径 (mm)	測定値 (mm)	最大引張荷重 (N)	引張強さ (N/mm <sup>2</sup> )	絞り (%)	曲げ性 ★	外観	判定
2.60	2.59✓	4385	832✓	57✓	G	G	GOOD✓
2.60	2.58✓	4065	778✓	57✓	G	G	GOOD✓
3.20	3.18✓	6055	762✓	56✓	G	G	GOOD✓
3.20	3.17✓	5770	731✓	56✓	G	G	GOOD✓
4.00	3.98✓	8240	662✓	64✓	G	G	GOOD✓
4.00	3.97✓	7945	642✓	64	G	G	GOOD✓
5.00	4.98✓	12730	654✓	59✓	G	G	GOOD✓
5.00	4.97✓	12480	643✓	56✓	G	G	GOOD✓
6.00	5.98✓	17570	626✓	60✓	G	G	GOOD✓
6.00	5.97✓	17070	610✓	60✓	G	G	GOOD✓

JIS G 3532 コンクリート用鉄線 (SWM-P)				★曲げ角度 160° ~180° 内側半径は線径の 3D/2 以下
線径 (mm)	許容差 (mm)	引張強さ (N/mm <sup>2</sup> )	絞り (%)	
2.60・2.90	±0.06	540以上	30以上	上記注文品は、検査の結果指定の規格に合格していることを証明致します。
3.00・3.20	±0.08			
3.50・4.00	±0.08			
4.50	±0.10			
5.00・5.50・6.00	±0.10			
7.00	±0.13			

原本と相違ない事を証明します  
田中コンクリート工業(株)  
東北工場



この書面は、日本製鉄株式会社が発行するミルシート正本ではありません。電磁的記録により作成された正本を原書とし、書面化したものです。

# 鋼材検査証明書

**日本製鉄株式会社**  
NIPPON STEEL CORPORATION



本社 北日本製鉄所釜石地区：〒026-8567 岩手県釜石市鈴子町23番15号  
社：〒100-8071 東京都千代田区丸の内二丁目6番4号

注文者店番 5821 -018933  
注文者照合番号 NITTEU BUSSAN  
注文者番号 5-210-E2-1-6-R452-01  
契約品名 BAR IN COIL  
規格 JIS G 3112 SD295 RN  
需要家 田中コンクリート工業株式会社  
需要家管理番号 AOMORI SHOWA SANGYO

証明書番号 2507C0144  
発行年月日 2025年07月23日

寸法	員数	質量 KG	製造番号	管理番号	引張試験 (G. L = DX8) 降伏点耐力 (引張強さ) (N/MM <sup>2</sup> )	伸び (%)	絞 (%)	BT	化学成分									
									C X100	Si X100	Mn X100	P X1000	S X1000					
D6	18	18068	M68563		352	544	29	GOOD	21	22	74	18	12					

青森県弘前市大塚1-1-2 青森昭和田産業株式会社  
TEL (0172) 8234611 (代)  
FAX (0172) 8214613

備考： MELTED, Poured AND PROCESSED IN JAPAN

注釈：  
G.L.: 標点距離、BT: 曲げ試験、AGS: オーステナイト結晶粒度、DEC: 脱炭層深さ試験、P: 製品分析  
NM: 清浄度

上記注文品は御指定の規格または仕様に従って製造され、その要求事項を満足していることを証明します。



北日本製鉄所 品質保証室長  
平林 圭



本証明書は御指定の規格または仕様に従って製造され、その要求事項を満足していることを証明します。本証明書の真偽については、次の当社窓口までお問い合わせ下さい (E-mail: bar-wire-rod@jp.nipponsteel.com)。

田中コンクリート工業株式会社  
東北工場

検査証明書

発行日 2025年 9月24日  
Page: 1/1

証明書番号 : 359-902310  
 契約 No. : 08-004-20048  
 出荷依頼書No. : 08603  
 出荷案内書No. : 061336  
 契約先 : (株)メタルワン鉄鋼製品販売 東北支店  
 特約店 : 青森昭和産業(株)  
 荷受人名 :  
 工上 :

認証番号QA0307023

**北越メタル株式会社**  
 〒940-0028 新潟県長岡市東井土3-8-8 特号  
 〒955-0862 新潟県三条市南町6-1-5 特号  
 三栄工場

項目	溶鋼番号	数量	質量 (kg)	化学成分 (%)											引張試験	曲げ試験	備考						
				C	Si	Mn	P	S	Cu	Cr	Sn	Ni	Mo	V				B	$C_{Mn/V6}$	Ceq (Pcm)	試験片番号	引張強度 N/mm <sup>2</sup>	引張伸び %
規格				27	55	150	50	50									2	295	600	440	16		
	上			16	16	51	27	30									2	353	507	30	70	6000	
寸法				17	13	51	24	26									2	358	513	30	70	6000	
	下			17	13	50	21	31									2	354	512	31	69	6000	
* サイズ				40																			
* 総合計				21,500																			

**青森昭和産業株式会社**  
 〒992-2389 青森県弘前市大和町4-2  
 TEL (0172) 822461 (代)  
 FAX (0172) 338113

※(1) JIS G 3112の規格範囲で寸法が呼び名D32を超えるものについては、呼び名3を附すことに14A号試験片の伸びの規格値からそれぞれ2を減じる。ただし、減じる限度は4とする。  
 上記ご注文商品は検査の結果指定の規格に合格したことを証明します。

品質管理責任者  
 青森昭和産業株式会社  
 部長  
 伊藤 保

工場長 QCM 係



田中コンクリー  
 (株)青森工業  
 東北工場

原本と相違ない事を証明します

製品検査証明書



株式会社伊藤製作所  
 本社 東京都千代田区神田小川町一丁目4番地  
 筑波工場 茨城県つくば市片田486番地  
 \*石巻工場 宮城県石巻市重直町2番地  
 TEL.03(8829)4030  
 TEL.029(937)2111  
 TEL.0225(96)1111

契約番号 259A5007-13  
 商社 日鉄物産(株)東北支店  
 特約店 (株)角弘 弘前支店  
 需要家 青森昭和産業(株)  
 工事名  
 製品名 鉄筋コンクリート用棒鋼 異形棒鋼  
 規格 JIS G 3112

種類 SD295 総質量 10,887 kg 証明書番号 51247545 発行日 25.09.25

納品明細	機械的性質				化学成分						
	試験片(号)	降伏点 N/mm <sup>2</sup>	引張強さ N/mm <sup>2</sup>	伸率 %	降伏比 %	面付試験 角度180度 内側半径	C ×100	Si ×100	Mn ×100	P ×1000	S ×1000
7055	2	374	496	26	69	GOOD	18	17	57	32	28
7056	2	366	492	28	75	GOOD	19	15	59	31	26
小計			500	≥ 16		1.5D					

青森昭和産業株式会社  
 青森県弘前市大町1丁目82番地  
 TEL (0172) 821111  
 FAX (0172) 821113

上記注文品はご指定の規格又は仕様に従って製造され、その要求事項を満足していることを証明します。

原本と相違ない事を証明します  
 田中コンクリート(株) 東武工場

工場長	QCM	係



This inspection Certificate is printed with special Ingegyo penit technology. この用紙は特殊防偽技術を使用しております。

# 鋼材検査証明書

規格 JIS G 3112

発注番号	出荷番号	発行日付
00168713	00151710	2025/08/28
商社名	商社名	
GKW250809-003	GKW250809-003	
出荷日付	出荷日付	
2025/08/27	2025/08/27	

得意先: 合鐵産業株式会社 御中

特約店: 青森昭和田産業株式会社

需要家: 青森昭和田産業株式会社

工事名: 青森昭和田産業株式会社



青森昭和田産業株式会社

関東事業所 品質管理課

品質管理責任者 藤邊 俊治

〒300-4111

茨城県土浦市大畑580番地

TEL: 029 (862) 5531

FAX: 029 (862) 5115

TOUGH-CON

納入先: 青森昭和田産業株式会社 岩本工場 殿

下記納入品は検査の結果指定の規格に合格していることを証明致します。

品名	製造番号	員数	質量(kg)	引張試験				化学成分(%)											
				降伏点又は0.2%耐力(N/mm <sup>2</sup> )	引張強さ(N/mm <sup>2</sup> )	降伏比(%)	伸び率(%)	曲げ試験	φ	SI	Mn	P	S	NI	Cr	Mg	V	Ceq	
				295以上	440-600	—	16以上	180°	27以下	55以下	100	180以下	50以下	50以下	50以下	—	—	—	—
S0295-D10 6.000m	41168	2,400	8,064	366	499	73	30	GOOD	19	14	68	29	30	11	18	18	4	35	
S0295-D10 6.000m	41169	1,200	4,032	355	485	73	34	GOOD	16	12	64	28	32	11	20	15	4	32	
	小計	3,600	12,096																
合計		3600	12,096																

青森昭和田産業株式会社  
 〒300-4111 茨城県土浦市大畑580番地  
 TEL: 029 (862) 5531 FAX: 029 (862) 5115

原本と相違ない事を証明します  
 田中コンクリート  
 青森昭和田産業株式会社 東北工場

工場長	QC/M	係



# 製品検査証明書

# ONICON


**株式会社伊藤製鋼所**  
 本社 東京都千代田区神田小川町一丁目1番10号  
 TEL. 03(5629)4630  
 筑波工場 茨城県つくば市片田486番地  
 TEL. 029(837)2111  
 \*石巻工場 宮城県石巻市真言町2番地  
 TEL. 0225(96)1111

契約番号 257A500A-6  
 商社 日鉄物産㈱東北支店  
 特約店 (株)角弘 弘前支店  
 番要家 青森昭和産業(株)  
 工事名  
 製品名 鉄筋コンクリート用棒鋼 異形棒鋼  
 規格 JIS G 3112

種類 SD295 総質量 13,373 kg 発行日 25.07.14  
 100744-6 証明書番号 51237389

溶鋼番号	呼称名	長さ m	本数	質量 kg	小計 kg	試験		機械的性質		化学成分					
						試験片(号)	降伏点又は耐力 N/mm <sup>2</sup>	引張強さ N/mm <sup>2</sup>	伸び %	断面収縮 180度 以内半径 %	C %	Si %	Mn %	P %	S %
0714	D13	6.000	960	5,731		2	356	492	27	GOOD	20	15	64	27	25
0715	D13	6.000	1,280	7,642	13,373	2	368	506	26	GOOD	22	19	63	26	25

青森昭和産業株式会社  
 青森県弘前市大宮町四丁目82番地  
 TEL (0172)824461  
 FAX (0172)824461

上記社文品はご指定の規格又は仕様に従って製造され、その要求事項を満足していることを証明します。

原本と相違ない事を証明します  
 田中コンクリート工業(株)  
 東北工場

工場長	OCM	係

合

This inspection Certificate is printed with special forensic proof technology.  
 この用紙は特殊偽造防止技術を使用しております。

発行日付 2025/08/21	出荷番号	商社No.
00168115	00151207	GKW250809-001
		出荷日付
		2025/08/20

# 鋼材検査証明書

規格 JIS G 3112

得意先: 台鐵産業株式会社 御中

特約店: 青森昭和産業株式会社

需要家: 青森昭和産業株式会社

工事名:



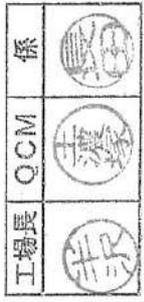
TOUGH-CON (777)

納入先: 青森昭和産業株式会社 岩木工場 殿

下記納入品は検査の結果指定の規格に合格していることを証明致します。

品名	製造番号	員数	質量 (kg)	引張試験				曲げ試験		化学成分 (%)											
				降伏点又は0.2%耐力 (N/mm <sup>2</sup> )	引張強さ (N/mm <sup>2</sup> )	降伏比 (%)	伸び率 (%)	曲げ角度	内側半径	C	Si	Mn	P	S	Ni	Cr	Mo	V	Ceq		
SD295 D13 6.000m	41574	300	1,791	346	477	73	29	GOOD	18°	1.5D	16	14	71	34	37	11	30	18	5	35	
SD295 D13 6.000m	41575	900	5,373	347	483	72	26	GOOD	18°	1.5D	15	15	69	30	32	11	22	24	5	33	
SD295 D13 6.000m	41577	600	3,582	344	482	71	25	GOOD	18°	1.5D	16	14	70	32	33	11	25	10	4	33	
SD295 D13 6.000m	41578	300	1,791	341	480	71	24	GOOD	18°	1.5D	18	16	61	29	33	9	25	13	3	34	
小計		2,100	12,537																		
合計		2100	12,537																		

青森昭和産業株式会社  
 〒030-0822 青森県弘前市大畑580番地  
 TEL: 0172-821461 (代)  
 FAX: 0172-821463



原本と相違ない事を証明します  
 田中コンクリート工業株式会社  
 東北工場

# 製品検査証明書

# ONICON

**株式会社伊藤製鋼所**  
 本社 東京都千代田区神田小川町一丁目4番地  
 TEL. 03(5625)7030  
 筑波工場 茨城県つくば市片田4番地  
 TEL. 029(837)2111  
 \*石巻工場 宮城県石巻市重吉町2番地  
 TEL. 0225(96)1111

契約番号 252A5097-1  
 商社 日鉄物産物産東北支店  
 特約店 (株)吉田産業 青森支店  
 需要家 青森昭和産業(株)  
 工事名  
 製品名 鉄筋コンクリート用棒鋼 異形棒鋼  
 規格 JIS G 3112

種類 SD295 総質量 12,500 kg  
 証明番号 51217550 発行日 25.03.11

溶鋼番号	呼び名	長さ m	本数	質量 kg	小計 kg	機械的性質		化学成分 %									
						試験片(号)	引張強さ N/mm <sup>2</sup>	降伏比 %	伸び %	面状組織 角度180度 内面半径	C	SI	Mn	P	S		
0342	D16	8.000	1,000	12,500	12,500	2	356 N/mm <sup>2</sup> 285 以上	440 N/mm <sup>2</sup>	≥ 16	1.5D	27	19	66	150	50	28	21

**青森昭和製鋼株式会社**  
 青森県弘前市大町1-1-1  
 TEL (0172) 821821  
 FAX (0172) 821821

上記注文品はご相定の規格又は仕様に従って製造され、その要求事項を満足していることを証明します。

原本と相違ない事を証明します  
**田中コンクリート工業(株)**  
 東北工場

工場長	QCM	係



This Inspection Certificate is printed with special forgery proof technology. この用紙は特殊偽造防止技術を使用しております。



5. コンクリート試験管理表
  - ①. 圧縮強度管理表
  - ②. スランプ管理表
  - ③. 空気量管理表
  - ④. 生コン中の塩化物測定記録

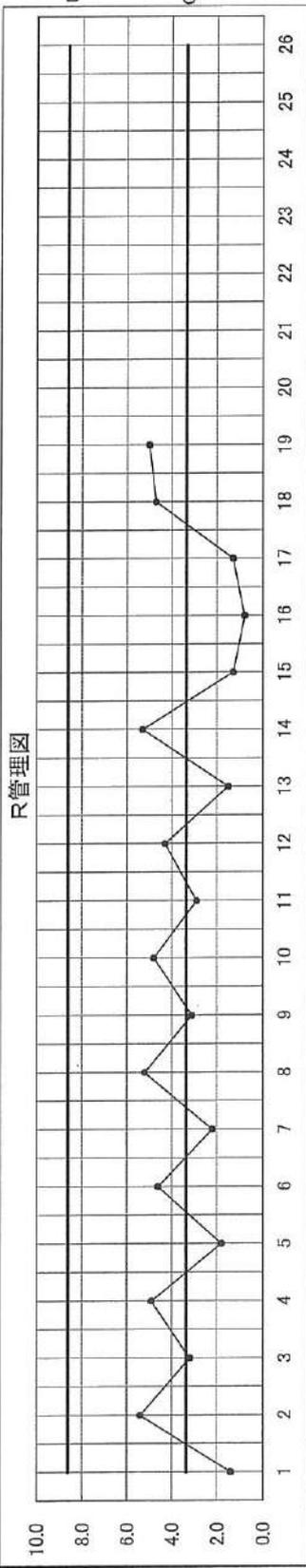
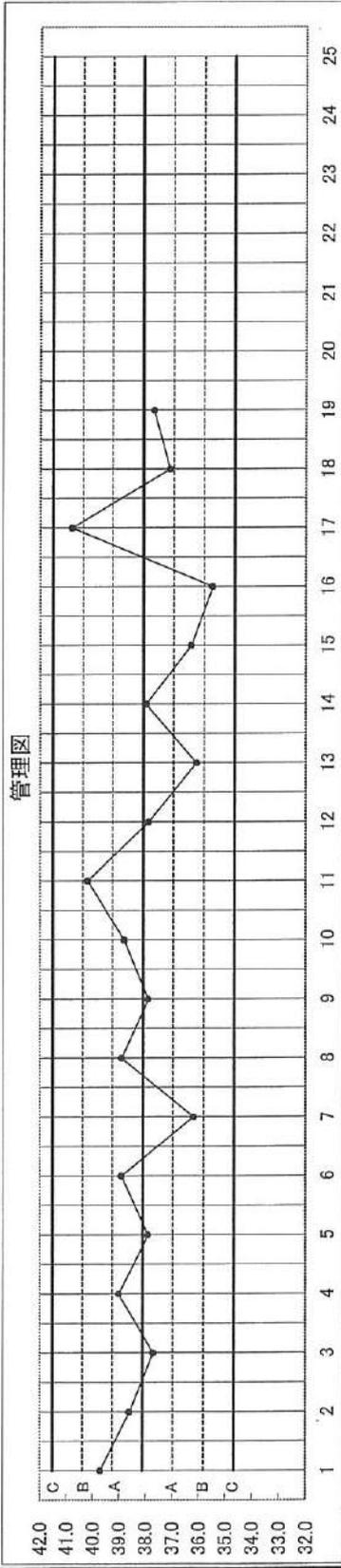
圧縮強度管理図(溶融スラグ) (X-R 管理図・ヒストグラム)

令和 7 年 11 月分

NO	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	
日付	3	4	5	6	7	10	11	12	13	17	18	19	20	21	24	25	26	27	28								
測定値	36.8	41.5	35.8	40.7	38.2	40.7	36.2	39.0	36.2	41.5	38.9	40.5	36.8	40.8	36.3	35.3	40.8	35.2	35.0								
X	39.7	38.6	37.7	39.0	37.9	38.9	36.2	38.9	37.9	38.8	40.2	37.9	36.1	37.8	35.7	35.2	40.2	39.9	40.0								
R	1.4	5.4	3.2	4.9	1.8	4.6	2.2	5.2	3.1	4.3	2.9	4.3	1.5	5.3	1.3	0.8	1.3	4.7	5.0								
X-X̄	1.6	0.5	-0.4	0.9	-0.2	0.8	-1.9	0.8	-0.2	0.7	2.1	-0.2	-2.0	-0.1	-1.8	-2.6	2.7	-1.0	-0.4								
(X-X̄) <sup>2</sup>	2.56	0.25	0.16	0.81	0.04	0.64	3.61	0.64	0.04	0.49	4.41	0.04	4.00	0.01	3.24	6.76	7.29	1.00	0.16								
判定	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合							

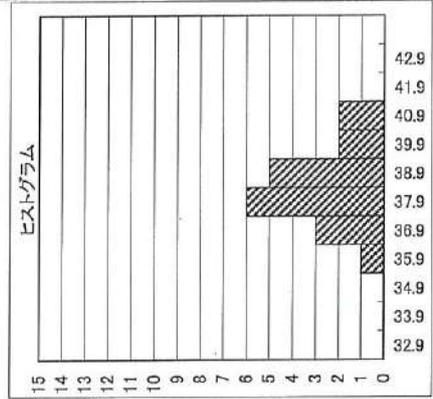
製品名称	φ10×20供試体
品質特性	圧縮強度試験
養生方法	製品同一養生

設計強度	30.0N/mm <sup>2</sup>
配合強度	37.5N/mm <sup>2</sup>
最大値	40.8
最小値	35.5
n	3
D <sub>4</sub>	2.575
d <sub>2</sub>	1.893
A <sub>2</sub>	1.023
ΣX	723.2
ΣR	63.7
Σ(X-X̄) <sup>2</sup>	36.15
N	19
検査	14日



解析

1. 平均強度(X) = ΣX/N = 38.1
2. 差の平均(R) = ΣR/N = 3.4
3. Xの標準偏差(σ<sub>p</sub>) = √Σ(X-X̄)<sup>2</sup>/N-1 = 1.4
4. 日内の標準偏差(σ<sub>W</sub>) = R/d<sub>2</sub> = 2.0
5. 日間の標準偏差(Σβ) = √σ<sub>X</sub><sup>2</sup>+σ<sub>W</sub><sup>2</sup>/3 = 0.4
6. 全体の標準偏差(σ) = √σ<sub>W</sub><sup>2</sup>+σ<sub>B</sub><sup>2</sup> = 2.0
7. 変動係数(V) = σ/X\*100 = 5.3
8. 管理限界線(UCL) = X̄+A<sub>2</sub>R = 41.5
9. 管理限界線(LCL) = X̄-A<sub>2</sub>R = 34.7
9. R管理限界線(UCL) = D<sub>4</sub>R = 8.6



田中コンクリート工業㈱東北工場

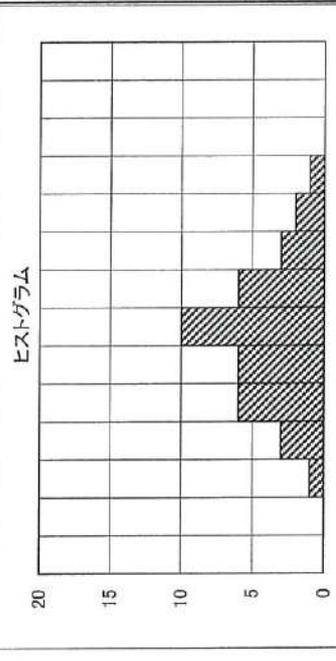
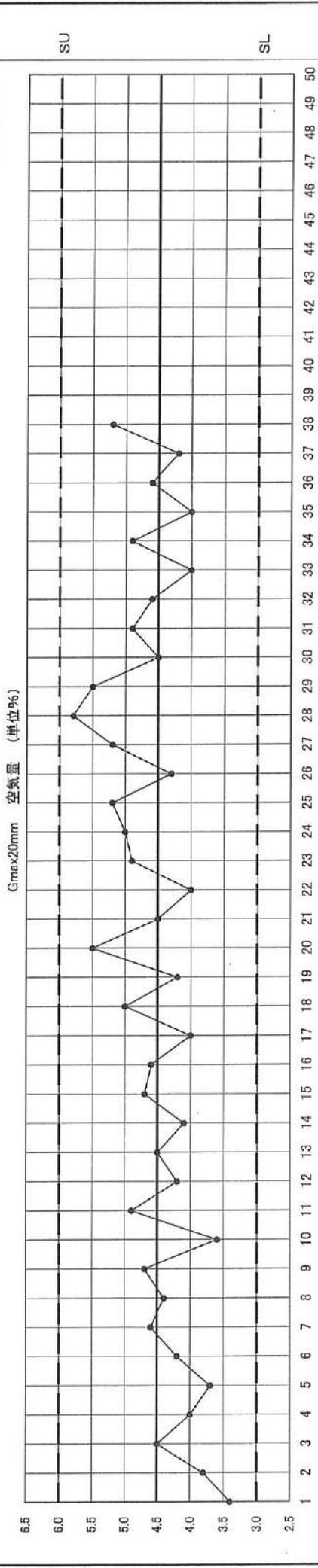
原本と相違ない事を証明する  
田中コンクリート工業㈱  
東北工場

空気量管理用紙 (溶融スラグ)

総合判定	工場長	QCM	係

令和 7 年 11 月分

N	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25													
n	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25													
日付	3	4	5	6	7	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29													
AM	PM	AM																																				
空気量	3.4	3.8	4.5	4.0	3.7	4.2	4.6	4.4	4.7	3.6	4.9	4.2	4.5	4.1	4.7	4.6	4.0	5.0	4.2	5.5	4.5	4.0	4.9	5.0	5.2	4.3	5.2	5.8	5.5	4.5	4.9	4.6	4.0	4.9	4.0	4.6	4.2	5.2

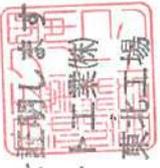


中心値 2.7 3.0 3.3 3.6 3.9 4.2 4.5 4.8 5.1 5.4 5.7 6.0 6.3  
h=0.3

NO	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
中心値	2.7	3.0	3.3	3.6	3.9	4.2	4.5	4.8	5.1	5.4	5.7	6.0	6.3
f	0	0	1	3	1	6	11	14	5	1	1	0	0
u			-4	-3	-2	-1	0	1	2	3	4		
fu			-4	-9	-2	-6	0	14	10	3	4		
f u <sup>2</sup>			16	27	4	6	0	14	20	9	16		

規格値	4.5±1.5%
ロットサイズN	19
サンプルサイズ n	43
最大値	5.8
最小値	3.4
区間の幅h	0.3
○番区間の中心値 X	4.5
Σf	43
Σfu	10
Σfu <sup>2</sup>	112

・ 平均値(X) =  $X = X_O + \Sigma fu / \Sigma f \times h$  = 4.57  
 ・ 標準偏差(S) =  $S = h \times \sqrt{1 / \Sigma f - 1 / (\Sigma fu^2 - (\Sigma fu)^2 / \Sigma f)}$  = 0.48  
 ・ 工程能力指数(Cp) =  $C_p = (SU - SL) / 6 \times S$  = 1.03  
 ・ 不良の割合  
 上限規格から外れる割合 =  $u = (SU - X) / S$  = 3.98 (Kε)  
 下限規格から外れる割合 =  $u = (X - SL) / S$  = 2.21 (Kε)  
 全体の不良の割合 =  $P = PU + PL$  = 1.37 (%)



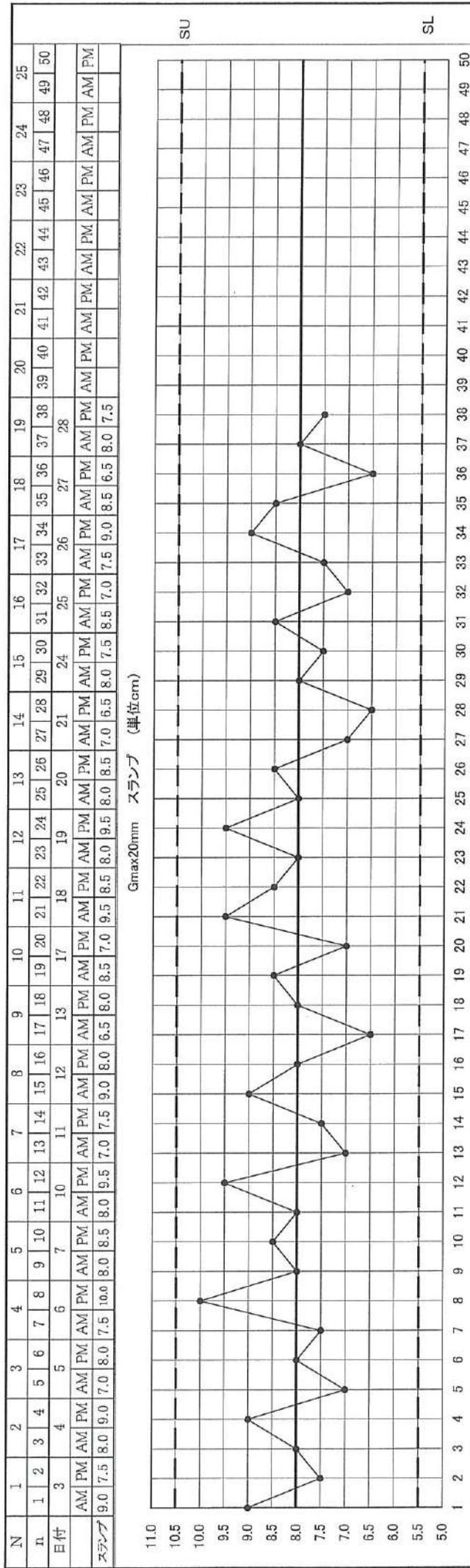
原本と相違ない事を証明します  
 田中コンクリート工業(株)  
 東北工場

田中コンクリート工業(株) 東北工場

# スランブ管理用紙 (溶融スラグ)

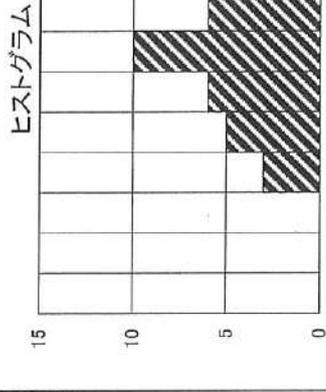
令和 7 年 11 月分

総合判定	工場長	QCM	係
合	長	長	長



規格値	8.0±2.5cm
ロットサイズN	19
サンプルサイズn	38
最大値	10.0
最小値	6.5
区間の幅h	0.5
○番区間の中心値 XO	8.0
Σf	38
Σfu	2
Σfu <sup>2</sup>	118

- 平均値(X) =  $X = XO + \Sigma fu / \Sigma f \times h$  = 8.03
- 標準偏差(S) =  $S = h \times \sqrt{1 / \Sigma f - 1 \{ \Sigma fu^2 - (\Sigma fu)^2 / \Sigma f \}}$  = 0.89
- 工程能力指数(Cp) =  $Cp = SU - SL / 6 \times S$  = 0.93
- 不良の割合
  - 上限規格から外れる割合  $u = SU - X / S$  = 2.77 (Kε)
  - 下限規格から外れる割合  $u = X - SL / S$  = 2.83 (Kε)
- 全体の不良の割合  $P = PU + PL$  = 0.51 (%)



NO	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
スランブ値	5.0	5.5	6.0	6.5	7.0	7.5	8.0	8.5	9.0	9.5	10.0	10.5	11.0
f	0	0	0	0	3	5	6	10	6	4	3	1	0
u					-4	-3	-2	-1	0	1	2	3	4
fu					0	-9	-10	-6	0	6	8	9	4
fu <sup>2</sup>					0	27	20	6	0	6	16	27	16

原本と相違ない事を証明し  
 田中コンクリート工業(株) 東北工場

田中コンクリート工業(株) 東北工場

コンクリート中の塩化物イオン(Cl-)量測定記録

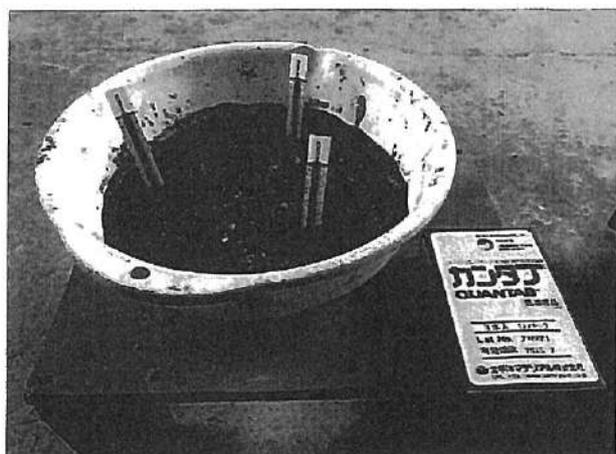
令和 7 年 11 月度

測定日 11 月 13 日 (木)

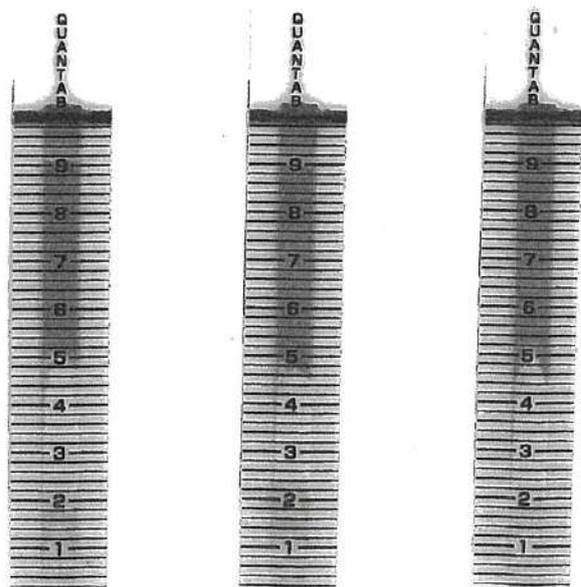
工場長	QCM	係
		

1 配合 (示方配合による) 配合の種類 スラグ

粗骨材の最大寸法 (mm)	スランプの範囲 (cm)	空気量の範囲 (%)	水セメント比 (%)	細骨材率 (%)	単位量 (kg/m <sup>3</sup> )					
					水 W	セメント C	細骨材 S1	スラグ S2	粗骨材 G	混和剤 AE
20	8±2.5	4.5±1.5	43.5	38.5	157	361	508	187	1145	1.81
セメントの種類		普通ポルトランドセメント								
混和剤の種類		AE減水剤 標準型 1種								
測定器名		カンタブ コ塩測第860202号 低濃度品 (Lot.754084) 有効期限 2026.8 ✓								



No.1                      No.2                      No.3



測定結果		
	カンタブの読み	塩素イオン (%)
No.1	5.0	0.0329
No.2	4.8	0.0298
No.3	5.0	0.0329
平均値		0.0319
コンクリート中の塩化物含有量		0.050 ✓

測定結果の判定	コンクリート中の塩化物含有量		判定基準値	判定
	0.050 kg/m <sup>3</sup>	≤	0.3 kg/m <sup>3</sup>	合格 ✓

原本と相違ない事を証明します

田中コンクリート工業(株)

東北工場

田中コンクリート工業(株) 東北工場

6. 試験機公正証明書

- ①. 圧縮強度試験機
- ②. 外圧強度試験機
- ③. トレーサビリティ体系

## 材料試験機校正証明書

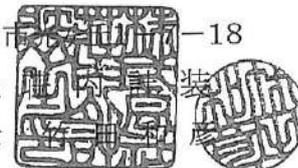
田中コンクリート工業 株式会社  
東北工場 殿

本報告書所載の材料試験機は、JIS B 7721に定める各規定によって  
校正を行い、同規格に適合している事を証明します。

山形県酒田市 1-18

株式会社

計量士



名称及び型式： 圧縮試験機 アムスラー式 油圧 堅型

レンジ： 1000kN ( 500. 250. 100 )

製造者： 株東京試験機製作所

製造番号： 20575-1

製造年月： 昭和48年8月

設置場所： 秋田県大館市二井田字菖蒲沼28

田中コンクリート工業 株式会社 東北工場 内

校正年月日： 自 2025年7月8日

有効期間： 至 2026年7月

精度等級：

レンジ	等級	使用範囲の下限	レンジ	等級	使用範囲の下限
100kN	1	20kN	1000kN	1	200kN
250kN	1	50kN			
500kN	1	100kN			

荷重校正器：

型式	能力	器物番号	証明書番号	等級	校正年月日 有効期限
ロードセル	200kN	ADM180621	G240201	0.5	2024年12月11日 2026年12月10日
ロードセル	1000kN	ADM140297	G240202	1	2024年12月13日 2026年12月12日

原本と相違ない事を証明します

田中コンクリート工業(株)

東北工場

(1) 上記器物の校正結果は別紙成績書通りである。

(2) 校正に用いた力計は、(社)日本計量振興協会校正センターにて  
定期的に校正されているものを使用。

(3) 精度等級は、JIS B 7721 表2に基づいて行った。



No.7-7-13(2)

圧縮試験機成績書

2025年7月8日

製造番号 20575-1

校正温度 30.0°C

レンジ (目量) kN	測定回数	①		②		③		付属品 (有無) を含む 平均値	相対誤差(%)					拡張 不確 (%)
	力計位置	0度		120度		240度			指示	繰返	往復	零	分解能	
	ラム位置	20%		40%		60%								
	最小レンジのみ	増加	減少	増加	増加	増加	q							
100 kN (0.1)	0	↓	0.00	0.00	0.00	0.00	—	—	—	—	0.00	—	—	
	20	20.16	20.00	20.17	20.19	20.14	-0.86	0.73	0.81	—	0.10	0.36		
	40	40.15	39.77	40.15	40.16	40.14	-0.38	0.11	0.94	—	0.05	0.10		
	60	60.21	59.90	60.25	60.22	60.20	-0.38	0.21	0.53	—	0.03	0.12		
	80	80.21	79.82	80.25	80.26	80.22	-0.30	0.13	0.49	—	0.03	0.10		
	100	100.19	↑	100.22	100.25	100.22	-0.22	0.06	—	—	0.02	0.08		
250 kN (0.25)	0	↓	0.00	0.00	0.00	—	—	—	—	—	0.00	—	—	
	50	49.85	—	50.03	50.00	49.96	0.08	0.36	—	—	0.10	0.11		
	100	99.53	—	99.95	99.84	99.77	0.23	0.43	—	—	0.05	0.13		
	150	149.44	—	150.12	149.78	149.78	0.15	0.45	—	—	0.03	0.13		
	200	199.42	—	199.89	199.96	199.76	0.12	0.27	—	—	0.03	0.08		
	250	249.14	—	249.58	249.33	249.35	0.26	0.18	—	—	0.02	0.05		
500 kN (0.5)	0	↓	0.00	0.00	0.00	—	—	—	—	—	0.00	—	—	
	100	99.56	—	99.65	99.60	99.60	0.40	0.10	—	—	0.10	0.42		
	200	199.03	—	199.00	199.19	199.07	0.47	0.10	—	—	0.05	0.42		
	300	298.47	—	298.44	298.58	298.50	0.50	0.05	—	—	0.03	0.41		
	400	397.76	—	398.40	398.50	398.22	0.45	0.19	—	—	0.03	0.43		
	500	497.22	—	497.49	497.22	497.31	0.54	0.05	—	—	0.02	0.41		
1000 kN (1)	0	↓	0.00	0.00	0.00	—	—	—	—	—	0.00	—	—	
	200	199.03	197.83	198.94	199.01	198.99	0.51	0.05	0.60	—	0.10	0.42		
	400	398.53	397.63	398.58	398.80	398.64	0.34	0.07	0.23	—	0.05	0.41		
	600	597.84	597.22	598.28	598.17	598.09	0.32	0.07	0.10	—	0.03	0.41		
	800	797.52	796.45	797.69	797.79	797.67	0.29	0.03	0.13	—	0.03	0.41		
	1000	996.81	↑	996.90	996.98	996.90	0.31	0.02	—	—	0.02	0.41		

付属品の検証(無)

レンジ (kN)	試験力 (kN)	④ 増加	①:④ (%)
100 kN (0.1)	0	0.00	—
	20	20.04	0.6
	40	40.11	0.1
	60	60.12	0.2
	80	80.15	0.1
	100	100.20	0.0

1.検査最大許容値

2.最大荷重検査

3.安全装置の検査

4.感度検査

5.据え付け検査

6.加圧板 推奨値(0.01mm以内/100mm・HRC55以上) 別紙参照

7.球面座の構造・作動

q.相対指示誤差(±1%)  
 b.相対繰り返し誤差(1%)  
 v.相対往復誤差(±1.5%)  
 f<sub>0</sub>.相対零誤差(±0.1%)  
 a.相対分解能(±0.5%)

荷重負荷装置  
 荷重指示装置  
 荷重に対する装置  
 稼働範囲に対する装置

良  
良  
良  
良  
良  
良  
良  
良  
良  
良

株式会社



計量士 竹田 和



原本と相違ない事を証明します

田中コンクリート工業(株)

東北工場

工場長	QCM	係

No. 7-7-13(3)

# 加圧板成績書

2025年7月8日

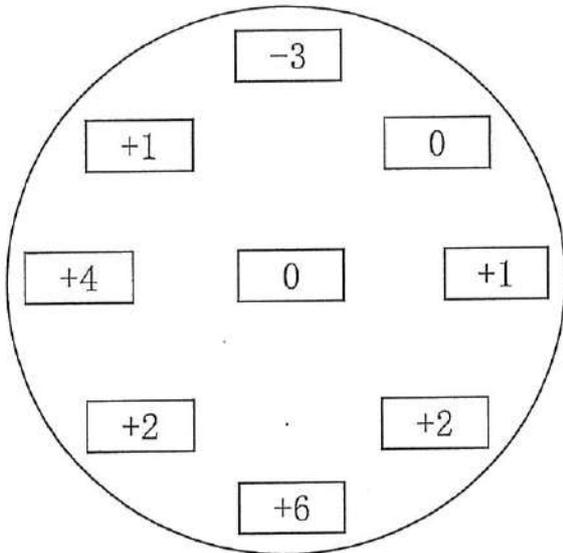
製造番号 20575-1

検査員 佐藤 史綱

I. 平面度 単位 (μm)

II. 硬度 単位 (HRC)

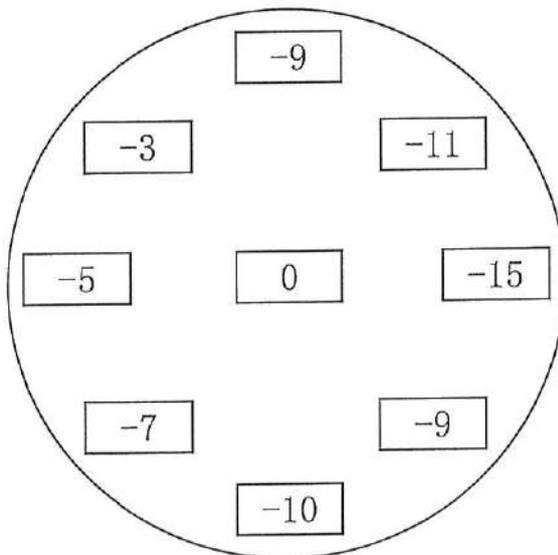
上部



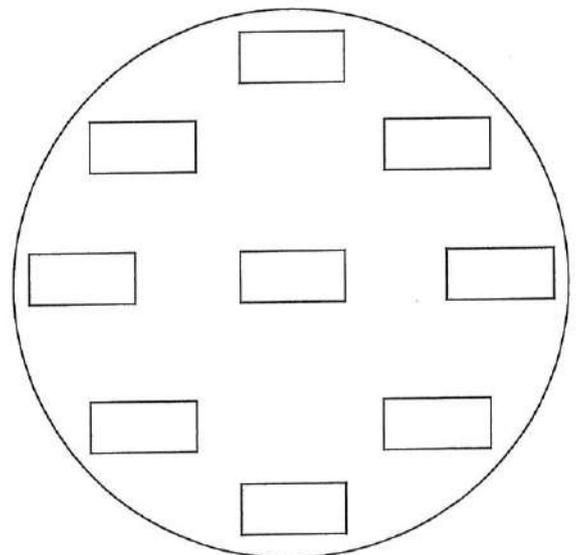
加圧板	硬度
上部	47
下部	48

下部

φ 10cm用



φ 12.5cm用



備考: 本検査(上・下部 加圧板)に使用した測定器

1. ハードスコープ JT トーシ(株) No.13295

2. 平面度検査器 (株)杉本試験機製作所 No.30818

原本と相違ない事を証明します

田中コンクリート工業(株)  
東北工場

工場長	QCM	係

# 圧縮試験機校正前データ

田中コンクリート工業株式会社  
東北工場 殿

2025年7月8日

製造番号 20575-1

校正温度 30.0℃

レンジ (目量) kN	試験力 (kN)	力計の 指示値 (kN)	測定実荷重		
			荷重増加 (kN)	器差 (%)	ゼロ戻り (%)
100kN (0.1)	20	20.001	20.163	-0.81	0.000
	40	40.001	40.147	-0.37	↑
	60	60.001	60.215	-0.36	
	80	80.001	80.211	-0.26	
	100	100.000	100.194	-0.19	
250kN (0.25)	50	50.001	49.853	0.30	0.000
	100	100.002	99.526	0.48	↑
	150	150.003	149.443	0.37	
	200	200.002	199.422	0.29	
	250	250.004	249.136	0.35	
500kN (0.5)	100	100.002	99.557	0.45	0.000
	200	200.006	199.026	0.49	↑
	300	301.012	299.465	0.51	
	400	400.012	397.760	0.56	
	500	500.015	497.220	0.56	
1000kN (1)	200	200.005	199.031	0.49	0.000
	400	400.004	398.528	0.37	↑
	600	600.009	597.837	0.36	
	800	800.008	797.520	0.31	
	1000	1000.009	996.809	0.32	

※ 検査最大許容値

相対指示誤差(±1%)

良

株式会社 田中コンクリート工業

計量士 竹田 和彦

原本と相違ない事を証明します

田中コンクリート工業株式会社

東北工場

工場長	QCM	係
		

## 材料試験機校正証明書

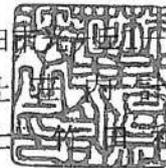
田中コンクリート工業 株式会社  
東北工場 殿

本報告書所載の材料試験機は、JIS B 7721に定める各規定によって  
校正を行い、同規格に適合している事を証明します。

山形県酒田市元町7-18

株式会社

計量士



名称及び型式： 曲げ試験機 アムスラー式 油圧 堅型  
レンジ： 250kN ( 100 . 50 )  
製造者： (株)東京試験機製作所  
製造番号： 20575-2  
製造年月： 昭和48年8月  
設置場所： 秋田県大館市二井田字菖蒲沼28  
田中コンクリート工業 株式会社 東北工場 内

校正年月日： 自 2025年7月8日

有効期間： 至 2026年7月

精度等級	レンジ	等級	使用範囲の下限	レンジ	等級	使用範囲の下限
	50kN	1	10kN			
	100kN	1	20kN			
	250kN	1	50kN			

荷重校正器：

型式	能力	器物番号	証明書番号	等級	校正年月日 有効期限
ロードセル	200kN	ADM180621	G240201	0.5	2024年12月11日 2026年12月10日
ロードセル	1000kN	ADM140297	G240202	1	2024年12月13日 2026年12月12日

原本と相違ない事を証明します

田中コンクリート工業(株)

東北工場

- (1) 上記器物の校正結果は別紙成績書通りである。
- (2) 校正に用いた力計は、(社)日本計量振興協会校正センターにて  
定期的に校正されているものを使用。
- (3) 精度等級は、JIS B 7721 表2に基づいて行った。

工場長	QCM	係

No.7-7-14(2)

曲げ試験機成績書

2025年7月8日

校正温度 30.0°C

製造番号 20575-2

レンジ (目量) kN	測定回数	①		②	③	付属品 (有無) を含む 平均値	相対誤差(%)					拡張 不確 (%)
	力計位置	0度		120度	240度		指示	繰返	往復	零	分解能	
	ラム位置	20%		40%	60%							
	最小レンジのみ 試験力(kN)	増加	減少	増加	増加		増加	q	b	v	f <sub>0</sub>	
50 kN (0.05)	0	↓	0.00	0.00	0.00	—	—	—	—	0.00	—	—
	10	10.01	10.09	10.04	10.01	10.01	-0.19	0.45	-0.80	—	0.10	0.22
	20	20.09	20.21	20.08	20.11	20.07	-0.47	0.49	-0.63	—	0.05	0.23
	30	30.02	30.30	30.05	30.06	30.06	-0.14	0.38	-0.94	—	0.03	0.18
	40	39.98	40.29	40.02	40.00	40.02	-0.01	0.22	-0.78	—	0.03	0.12
	50	49.97	↑	50.02	50.02	50.02	-0.00	0.22	—	—	0.02	0.12
100 kN (0.1)	0	0.00	0.00	0.00	0.00	—	—	—	—	0.00	—	—
	20	20.03	—	20.06	20.08	20.06	-0.28	0.22	—	—	0.10	0.17
	40	39.99	—	40.13	40.08	40.07	-0.16	0.36	—	—	0.05	0.23
	60	60.05	—	60.14	60.12	60.10	-0.17	0.16	—	—	0.03	0.12
	80	80.02	—	80.01	80.03	80.02	-0.03	0.03	—	—	0.03	0.08
	100	100.09	—	99.93	100.04	100.02	-0.02	0.16	—	—	0.02	0.12
250 kN (0.25)	0	0.00	0.00	0.00	0.00	—	—	—	—	0.00	—	—
	50	49.91	50.33	50.09	50.13	50.05	-0.09	0.44	-0.84	—	0.10	0.50
	100	100.12	100.86	100.29	100.35	100.25	-0.25	0.23	-0.75	—	0.05	0.43
	150	149.97	150.32	149.96	149.85	149.93	0.05	0.08	-0.23	—	0.03	0.41
	200	200.42	200.56	200.52	200.43	200.46	-0.23	0.05	-0.07	—	0.03	0.41
	250	250.06	↑	250.30	250.11	250.15	-0.06	0.10	—	—	0.02	0.41

付属品の検証(無)

レンジ (kN)	試験力 (kN)	④ 増加	①:④ (%)
50 kN (0.05)	0	0.00	—
	10	9.99	0.1
	20	20.01	0.4
	30	30.13	0.4
	40	40.07	0.2
	50	50.08	0.2

1.検査最大許容値

q.相対指示誤差(±1%)  
b.相対繰返し誤差(1%)  
v.相対往復誤差(±1.5%)  
f<sub>0</sub>.相対零誤差(±0.1%)  
a.相対分解能(±0.5%)

良  
良  
良  
良  
良  
良  
良

2.最大荷重検査

荷重負荷装置  
荷重指示装置  
荷重に対する装置  
稼働範囲に対する装置

良  
良  
良  
良

4.感度検査

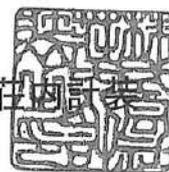
5.据え付け検査

6.加圧板 推奨値(0.01mm以内/100mm・HRC55以上) 別紙参照

7.球面座の構造・作動

良

株式会社 田中コンクリート工業(株)



計量士 竹田和彦



原本と相違ない事を証明します

田中コンクリート工業(株)

東北工場

田中

工場長	QCM	係

## 曲げ試験機校正前データ

田中コンクリート工業株式会社  
東北工場 殿

2025年7月8日

製造番号 20575-2

校正温度 30.0℃

レンジ (目量) kN	試験力 (kN)	力計の 指示値 (kN)	測定実荷重		
			荷重増加 (kN)	器差 (%)	ゼロ戻り (%)
50kN (0.05)	10	10.000	10.007	-0.07	0.000
	20	20.001	20.086	-0.43	↑
	30	30.000	30.019	-0.07	
	40	40.000	39.985	0.04	
	50	49.999	49.971	0.06	
100kN (0.2)	20	20.000	20.033	-0.17	0.000
	40	40.000	39.986	0.04	↑
	60	60.000	60.050	-0.08	
	80	80.000	80.020	-0.03	
	100	100.000	100.085	-0.09	
250kN (0.25)	50	50.000	49.913	0.17	0.000
	100	100.001	100.116	-0.12	↑
	150	150.000	149.973	0.02	
	200	200.002	200.422	-0.21	
	250	250.001	250.056	-0.02	

※ 検査最大許容値

相対指示誤差(±1%)

良

株式会社

計量士

竹田 和彦

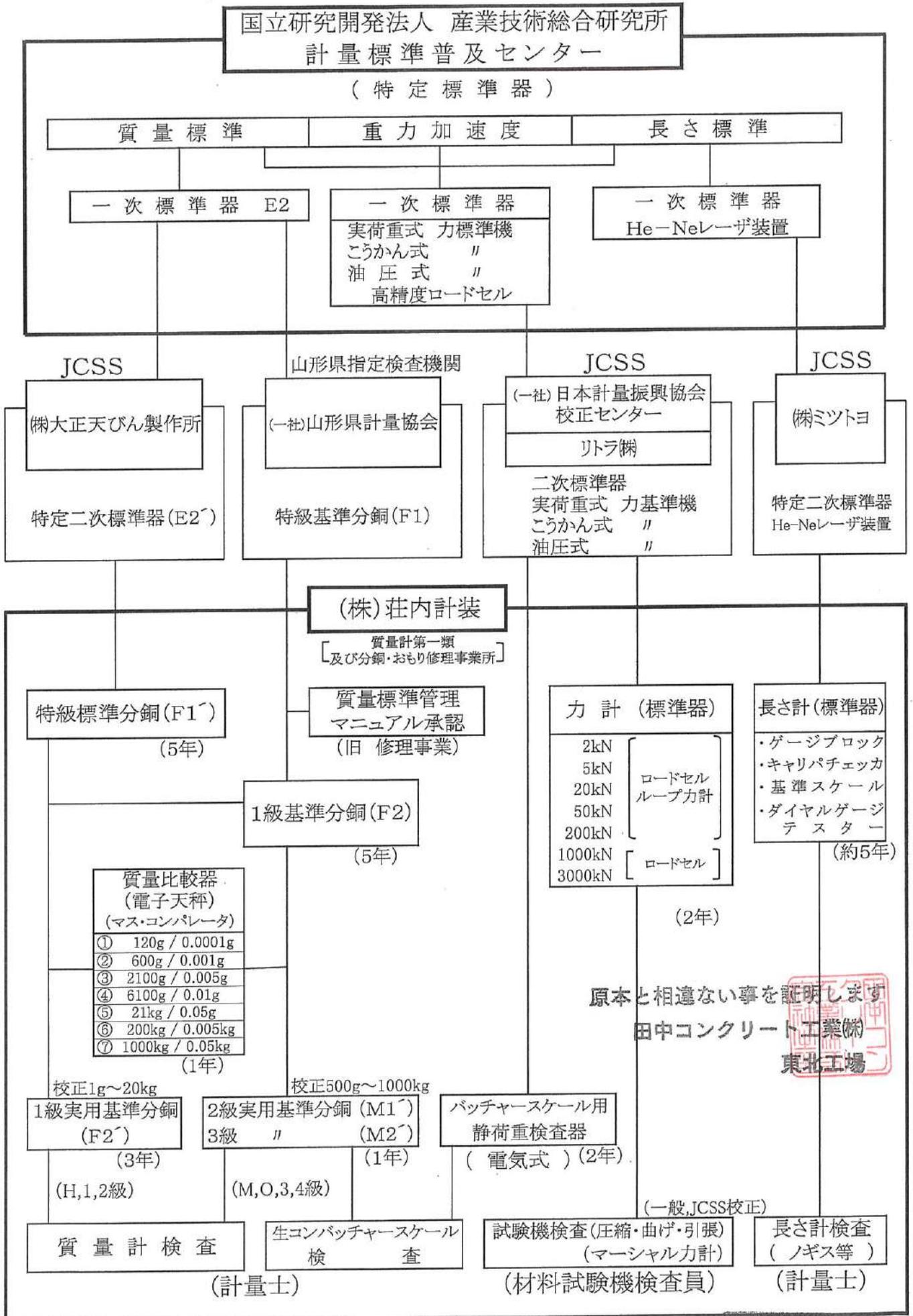
原本と相違ない事を証明します

田中コンクリート工業(株)

東北工場

工場長	QCM	係
		

# 質量計・力計・長さ計 トレーサビリティ体系図



工場長	QCM	係
(印)	(印)	(印)

株式会社 荘内計装  
〒998-0061 山形県酒田市光ヶ丘1-7-18  
tel 0234-33-2011 fax 0234-33-2001